

米令衆國貨幣委員報告書

第十二号ノ甲



114  
A1405  
14



抹國之部

- ト 右封入書
- ハ 公使「クレ」モルヨリ國務卿宛ノ書
- ニ 公使「クレ」モルヨリ國務卿宛ノ書
- ホ 右封入書
- ヘ 公使「クレ」モルヨリ國務卿宛ノ書
- ロ 公使「クレ」モルヨリ國務卿宛ノ書
- ハ 債幣委員ヨリ公使ニ對スル疑問ノ答書
- ニ 債幣委員ヨリ丁抹造幣首長ニ對スル疑問ノ答書
- ホ 右封入書
- ヘ 公使「クレ」モルヨリ國務卿宛ノ書
- ト 右封入書

和信郎譯

天  
正  
十  
一  
年  
三  
月

イ

謹啟九月十八日附貴省ノ回文ヲ拜讀シ即チ各國金銀比較價格ノ變易其他教爭ニ就尋究スルカ為メ政府特ニ其委員ヲ置レテヲ領知ス而シテ其疑問ニ一々應答ヲ附シテ以テ之カ報道ヲ為スヘキトノ旨ヲ奉シ余謹テ茲ニ左ノ教書ヲ進呈ス

甲 在丁抹國米公使ニ對スル疑問ノ答書

乙 丁抹國造幣局首長ニ對スル疑問ノ答書

丙 丁抹國造幣規則刊行書

丁<sub>子</sub> 千八百七十三年ヨリ七十四年ニ至ル造幣首長年報刊行

書

全<sub>二</sub> 千八百七十四年ヨリ七十五年ニ至ル全上

全<sub>三</sub> 千八百七十五年ヨリ七十六年ニ至ル全上

以上ノ書多クハ之レヲ此國ノ大蔵省ヨリ得タル所ニシテ折

余カ其答辱ヲ製セルヤ極メテ迅速ヲ以テシ而モ且ツ其應答ノ  
確實ナル或ハ余カ勤勉ノ一斑ヲ表示スルニ足ルト自言ラルモ  
不当ナルナカラン乎勿々不倫頓首再行

千八百七十六年十一月八日在「ゴペンヘーゲン」

米國公使館

「エム、ゼー、クレ、モ」謹言

華聖頓府

國務卿「ハミルトン、フ、ホレ、ユ」閣下

口 公使ニ對フル疑問ノ答辱(封入(甲)ノ部)

第一第二疑問ノ答

金銀比較價格ニ付此國ニ在テハ苟クモ其變易ヲ見ス蓋シ封入  
ノ別紙ニ載セルカ如ク千八百七十三年五月二十三日貨幣條例  
制定以前ハ銀貨ヲ以テ本位ト為セシカ此條例ヲ以テ之ヲ更メ  
金貨ヲ本位ト為シ銀貨ヲ補助貨幣ト為セルカ故ニ此條例制定  
前ニ係ル貨幣ハ新金貨或ハ金貨抵當ノ銀行紙幣ヲ以テ金一銀  
十五、六七五ニ準則シテ悉皆徴収交換ヲ為シ凡ソ旧貨ノ通用ヲ  
禁止シタルノ故ヲ以テ金銀比較價格上苟クモ其低昂變易ヲ生  
セサル也(千八百七十三年間米國ノ海外關係(ホレ、ユ、クレ、モ)ト題セル第一章  
二百十三日制定貨幣條例ニ是造幣會議々定ノ要旨反訳文ヲ見  
ル要ス)

イ 疑問ノ答

凡ッ銀ハ政府自カテ之ヲ蒐集シテ海外ニ(訖中英)輸送セルガ故  
金銀比較價格ニ付亦之カ準則トナルヘキモノナシ

ロ 疑問ノ答

此國金價ヲ以テ價值標準ト為シ幾許巨大ノ仕拂向ニ於テモ之ヲ以テ充用スルヲ得且  
ツ銀價モ亦之ニ使用シテ支拂スル所ナレト雖モ實地ニ於テ銀價ノ用ハ日用取引ノ間  
終ニ其小少ノ餘殘ニ供并スルニ止マル而已ニシテ且ツ其流用總額ニ制限アルヲ以テ  
自然巨額ノ仕拂向ニ於テ之ヲ用エルヲ見ス

ハ 疑問ノ答

此國ノ金價及ニ金塊ノ現在總額ハ五千一百万「クラオン」(凡千三百三十  
九万兩ニ當ル)ニシテ銀價ノ現在總  
額ハ千七百七十二万九千「クラオン」(凡四百六十五万三  
千八百兩ニ當ル)ナリ

ニ 疑問ノ答

金銀類ニシテ直ニ貨幣ニ改鑄スルヲ得ル板金、服飾類ノ總額ハ其精算ヲ得ル能ハス

ホ 疑問ノ答

五

「ゴペンヘーゲン」ノ國立銀行ハ銀行紙幣ト一般通用紙幣トヲ發  
行スルノ特許ヲ有ス其銀行紙幣ハ通用制限ノ下ニ適法通貨ニ  
シテ且ツ所有主ノ請求アラハ直ラニ同額ノ貨幣ト交換スルヲ  
得ル者トス又其一般通用紙幣ノ發行高ハ現今六千八百五十万  
「クラオン」(凡千七百九十八  
万二千兩ニ當ル也)ナリ

ヘ 疑問ノ答

此國嘗テ開採セル一ノ金銀山ナシ

第三第四疑問ノ答

右應答ハ第一疑問ノ應答中ニ詳述ス

第五疑問ノ應答

千八百七十三年五月二十三日ノ布告ヲ以テ旧銀價千八百七十  
六年十月一日迄凡ク改正ノ金銀價ト等シク流用スルヲ得ル者  
トセリ而シテ旧法ノ通貨(紙幣、金銀類)ハ同上年月迄ニ悉皆徴収

換レテ現今其餘残ラレ蓋シ此國ニ於テハ斯ク漸次ヲ以テ其債  
幣法ヲ改正セルカ故金銀比較價格上ニ亦其影響ヲ及ハセシ  
ナリ隨テ通商貿易及ヒ生産工業上ニモ亦其害ヲ醸生セシメ  
ルヲナシ

第六疑問ノ答

造幣ノ事ハ政府特リ之ヲ管理スルカ故ニ貨幣ハ凡テ其所轄ノ  
造幣局ニ於テ鑄造スル而已然レモ素ト金貨ノ鑄造ニ制限ヲ  
キ以テ人民ノ依頼ニ拠リ之ヲ造ル可シ其手数料ハ一歩ノ四分  
一ニシテ且ツ其改鑄額ニ亦制限ヲキモノトス銀貨ニ至テハ補  
助貨幣タルヲ以テ其鑄造ハ主トシテ政府ノ便宜ニ因ルモノト  
ス而シテ他邦ノ金銀貨ハ瑞典ト諾威トノ貨幣ニ非ナルヨリ適  
法通貨ト為サス是蓋シ此二國ト共ニ締約シテ其貨幣法ヲ一ニ  
歸シ三國相共ニ其貨幣ヲ通用スヘキヲ協議シタル所アレハ

也

第八疑問ノ答

此國嘗テ開採ノ金銀山ヲキカ故ニ凡テ鑛山ニ関スル規則アル  
ナシ

第九疑問ノ答

茲ニ封入セル千八百七十三年ヨリ七十六年ニ至ル造幣首長ノ  
年報ヲ以テ本件疑問ノ應答ノ資本ト為ス

ハ 丁 抹 造 幣 首 長 ニ 對 ス ル 疑 問 ノ 答 ( 封 入 )

ハ 丁 抹 造 幣 首 長 二 對 ス ル 疑 問 ノ 答 (封入部)

第一疑問ノ答

此國ニ一ノ開採セル鑛山ヲキテ以テ鑛山規則ハ嘗テ之ヲ設ケ  
ス而シテ造幣規則ハ謄寫ヲ以テ茲ニ封入ス(最モ千八百七十七年  
孫ト題セル第一章二百十三條トシヨリ二百十七條トシテ造幣  
ノ間ニ其要旨ヲ載スルハ就テ見ルヲ要ス)

第二疑問ノ答

本件疑問ニ付聊カ應答ノ資トナルヘキモノナシ故ニ何等報道  
ヲ為ス能ハス

第三疑問ノ答

本件疑問ニ付更ニ記スヘキ事項ナシ

第四疑問ノ答

造幣下渡日限ニ付別ニ規定ヲ設ケス唯成ル可ク又ケ其迅速ヲ旨  
ト為ス尤モ造幣局所定ノ價ヲ以テ地金差ニ外國貨幣類ヲ購収

スルモノハ常ニ獨リ國立銀行ナルヲ以テ改鑄ノ事ヲ依頼スル  
モノモ亦此銀行ノ外ニ之ナシ

第五疑問ノ答

前ニ指示セル千八百七十三年五月二十三日制定造幣規則ノ外  
制定ニ係ルモノナシ

第六疑問ノ答

千八百七十三年ヨリ七十六年ニ至ル造幣首長毎年報告書ヲ封  
入シ以テ應答ノ資ニ充ツ

(三)  
拜啟嚮ニ「スカンデナヴィア」三王國(丁林瑞典)共ニ貨幣法ヲ一定シ  
テ金貨本位ヲ採用セントスルニ當テ新聞紙上諸經濟學士ハ之  
カ為メ數月間駁議討論ヲ為セリ蓋シ亦客歲日耳曼帝國ニ於テ  
金貨本位ヲ採用シタル故アルヲ以テ也而シテ之カ為メ此三國  
ハ各其貨幣法ヲ變更セサルヲ得サルニ及ヒレカ丁林國王ハ先  
ツ特ニ委負ヲ命シ以テ自國貨幣上ノ景況如何ヲ探究具狀セシ  
メントス實ニ本年六月一日也此時ニ當テ遠々「コペンヘーゲン」  
府ニ「スカンデナヴィア會議」(三國ノ取藝製作ノ道ヲ同ノ商埠アリ)  
シテ以テ其負ニ謀ルニ三國貨幣一定ノ事ヲ以テセシカ皆異議  
ナク之ヲ是認シ協同委員ヲ置テ蒐獵尋究セシムヘキ事ヲ決定  
セリ於是乎三國ノ政府各三名ヲ出シテ協同委員ヲ組織シ八月  
二十七日ヲ以テ此府ニ會シ九月二十日ニ至テ其審議ノ件々ヲ

各政府ニ具狀シテ此會議ヲ閉罷セリ推思スルニ其議條ハ各政  
府之ヲ可認スルナルヘシ而シテ頃者其議條ヲ一ノ丁林新聞紙  
ニ掲示シタルハ余其大意ヲ摘記シテ茲ニ封入ス抑モ丁林國王  
ニ至テハ諾威及ニ瑞典ト相共ニ其議條ヲ遵用セン<sup>ト</sup>ヲ切ニ  
希望スルカ如シ如何トナレハ近口此府ノ國立銀行ヲレテ其登  
行紙幣ノ準備銀塊ヲ特ニ金ト交換セシムル<sup>ト</sup>アレハ也然リ而  
レテ其議條ヲ視ルニ後來改羅巴各國ニ行レタル貨幣法ニ非ス  
レテ全ク異法ナルカ如シ若レ夫然ラハ万國貨幣一定ノ方案ニ  
向テ妨礙ナル者ハ獨リ客歲日耳曼國ニ於テ採用セル一ノ新法  
ニ止ラス豈万國貨幣ノ一定ヲ希望スルモノニレテ亦遺憾ナラ  
スヤ不贅頌首百拜

千八百七十二年十月二十三日在「コペンヘーゲン」

米國公使館

大藏省



「エム、レ、エー、グ、レ、ー、モ、ル」謹白

國務卿「ハミルトン」フ、レ、エ、閣下

九

ホ

「スカンデナヴィア」三王國協同委員ノ貨幣一定議案ノ要略

第一

「スカンデナヴィア」三王國流通貨幣ノ基本ハ金ヲ用、銀其  
他ノ金屬ハ之ヲ補助貨幣タルヘシ

第二

通貨ノ中主領ナルモノヲ「クラオン」金貨ト名称シ其價格  
ノ倍增スルモノヲ「カブル」クラオント名称スヘシ而シテ純金  
一「キログラム」ヲ以テ「クラオン」金貨二百四十八箇又「カブル」  
ヲオン「百二十四箇」ヲ鑄造スヘシ

右「クラオン」金貨十分一ノ貨幣即チ「クラオン」弗ヲ以テ算數ノ

起原ニ定メ又「クラオン」弗ヲ十分一「オートルト」為スヘシ

此レ曰ク「オートルト」貨幣ハ歐洲北方ノ四侯ニシテ「スカンデナヴィア」  
地方ノ内今尚ホ之ヲ流用スル處アリ其價幾シト我レ一「オートルト」  
ニ當ル

第三

凡テ金貨ノ性合ハ純金九十銅十ノ割合タルベシ一「ク  
ラオン」金貨ノ秤量ハ四「グラム」四八〇三ニシテ其直經十九ミ

大蔵省

ルツメートルタルヘレ又一「ダブル」クラオン」ノ秤量ハ八「ガラ  
 ム」九六〇六ニシテ其直径ニ十四「ミル」リメートルタルヘレ  
 第四 小貨幣ハ銀及ク青銅ヲ以テ鑄造スヘシ而シテ青銅貨ノ  
 性合ハ銅九十五錫四銻鉛一ノ割合タルヘシ  
 第五 銀貨ノ鑄造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

名 稱	直径「ミル」ニシテ	全量「クラ」トシテ	純秤量「クラ」トシテ
四「クラ」オン「串」	三十九	三十	二十四
二「クラ」オン「串」	三十一	十五	十二
一「クラ」オン「串」	二十五	七五	六
五十「オール」	二十二	五	三
四十「オール」	二十	四	二四
二十五「オール」	十八	三	一五
十「オール」	十六	二	〇六

一〇

第六 青銅貨ノ鑄造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

名 稱	直径「ミル」リメートル	青銅一「キログラム」ノ鑄造高
五十「オール」	二十七	百二十五箇
二十「オール」	二十一	二百五十箇
一「オール」	十七	五百箇

第七 金銀及ク青銅貨各純多ノ秤量ニ付悉皆其精確ヲ得難シト  
 故ニ左ノ量ヨリ超過増減アルヘカラス

種 類	平均一箇ニ付	平均「キログラム」ニ付	純金ノ秤量ニ付
金 貨	〇、〇〇二五	.....	〇、〇〇二
四「クラ」オン「串」	〇、〇〇三	.....	
二「クラ」オン「串」	〇、〇〇四	.....	
一「クラ」オン「串」	〇、〇〇五	.....	
五十「オール」	.....	〇、〇〇五	〇、〇〇三

四十「オール」	.....	.....
二十五「オール」	.....	0.0010
十「オール」	.....	0.0015

但レ此割合ハ三王國內各造幣局ニ於テ金銀分析試金ノ本ト為スヘシ

第八條 貨幣ハ凡テ其周田ヲ厚ク鑄造シ二十五「オール」及ヒ十「オール」貨幣ヲ除クノ外其側面ヲ刻ムヘシ又一「クラオン」金貨ノ表ニハ一「クラオン」ト名記シ一「ダブル」クラオン「金貨」ノ面ニハ一「ダブル」クラオン「ト名記シテ各幾許「クラオン」弗ニ當ル旨ヲ載スヘシ

第九條 三國內何レノ造幣局ニ於テモ以上ノ規程ヲ遵奉シテ鑄造スル貨幣ハ凡テ適法通貨ニシテ三國內公私一切ノ仕拂方ニ用ユルヲ得ヘシ但レ何人ニテモ一口ノ仕拂方二十「クラオン」

シ弗以上ナレハ一、二及ヒ四「クラオン」弗ヲ以テ受領スルヲ拒ムヲ得又五「クラオン」弗以上ナレハ小銀貨ヲ拒ムヲ得又一「クラオン」弗以上ナレハ青銅貨ヲ拒ムヲ得ヘシ

第十條 通用金貨ノ磨耗第三條ニ定メタル秤量ノ百分一ノ二<sup>セント</sup>分一ニ及ハ、即チ諸般ノ仕拂方ニ流用スルヲ得ルモノニシテ各王國ノ大蔵省ニ元價ヲ以テ交換スヘシ又通用小貨幣ノ面磨耗シ辨ス可ラサルモノモ亦各國大蔵省ニ於テ元價ニ以テ交換スヘシ但レ其磨耗甚レカラスレテ造幣局名ヲ辨スルヲ得ハ其國ノ大蔵省ニ於テスヘシ

以上列記セル所ハ議條ノ要旨ニシテ他尚ホ數條アリ曰三王國相共ニ此規定ヲ遵奉シ尚ホ之ヲ追補セント要スルノ國ハ自餘ノ政府ニ此旨ヲ協議スヘシ云々等ナリ茲ニ略ス

拜啟「スカンデナビヤ三王國」（瑞典、挪威、丹麥）ニ於テ貨幣法ヲ一定シ金  
貨本位ニ決定セシト即チ本月十有八日ヲ以テ三國ノ全權公使  
「ストックホルム」ニ相會レテ決議調印ヲ為セリ思フニ之ヲ以テ  
本定約ニ為シテ實施スルノ日遠キニ非ナルヘシ右調印セル條  
款ハ昨日ノ新聞紙上ニ揭示セルヲ以テ余其要旨ヲ翻譯シテ茲  
ニ封入ス伏テ高覽ヲ是祈ル勿々不佞百拜

千八百七十二年十二月二十八日在「コペンヘーゲン」

米國公使館

「エム、ジェーグラー」モル謹白

國務卿「ハミルトン、フヤシユ」閣下

一、二

ト

貨幣法一定ノ議ニ付瑞典、諾威及ヒ「丁抹」ノ三國全權公使カ  
千八百七十二年十二月十八日「ストックホルム」ニ於テ決議  
調印スル條款

第一條 三王國貨幣ノ基本ハ金ヲ用ヒ此他小貨幣ハ銀及ヒ青  
銅タルヘシ

第二條 三王國流用貨幣ノ主領ナルモノヲ二箇トス其一ハ純  
金一「キログラム」ヲ以テ二百四十八箇ニ鑄造マル貨幣也又  
其一ハ純金一「キログラム」ヲ以テ百二十四箇ニ鑄造マル貨  
幣也而シテ前ノ貨幣ノ十分一ト後ノ貨幣ノ二十分一トハ  
共ニ皆通用貨幣ノ原價ニシテ之ヲ「グラオン」ト名稱スヘシ  
又一「グラオン」ヲ百「オール」ニ分割スヘシ

第三條 金貨ノ性合ハ「純金九十銅十」ノ割合タルヘシ又十  
「グラオン」金貨ハ秤量四「グラム」四八〇三ニシテ直徑十八「ミ

ルリメートルタルベシ又二十「クラオン」ノ金貨ハ秤量八「グラム」九六〇六ニシテ直径二十三「ミリメートル」タルベシ  
 第四條 小貨幣ハ第五條ニ依テ鑄造セル銀貨ト青銅貨トハ一者タルヘシ但シ青銅貨鑄造ノ性合ハ銅九十五錫四ニ知一ノ割合タルヘシ

第五條 銀貨ハ左ノ規定ニ依テ鑄造スヘシ

種類	径	秤量	純銀
二「クラオン」一箇ニ付	三十一 <small>ミリメートル</small>	十五.〇〇 <small>グラム</small>	十二.〇〇 <small>グラム</small>
一「クラオン」全	二十五	七.五〇	六.〇〇〇
五十「オール」全	二十二	五.〇〇	三.〇〇〇
四十「オール」全	二十	四.〇〇	二.四〇〇
二十五「オール」全	十七	二.四二	一.四五二
十「オール」全	十五	一.四五	〇.五八〇

一、三

第六條 青銅貨ハ左ノ規定ニ依テ鑄造スヘシ

種類	径	秤量	純銀
五「オール」一箇ニ付	二十七 <small>ミリメートル</small>	百二十五箇	
二「オール」全	二十一	二百五十箇	
一「オール」全	十六	五百箇	

第七條 金銀及ヒ青銅貨各純分ノ秤量ニ付悉皆其精確ヲ得難シト云ハ左ノ量ヨリ増減超過アル可ラス

貨幣種類	秤	量	純分
二十「クラオン」	平均一箇ニ付	一「クラオン」ニ付平均	〇.〇〇一五純金
十全	〇.〇〇一五	.....	
二全	〇.〇〇二〇	.....	
一全	〇.〇〇五〇	.....	

五十「オールド」	.....	0.005	0.005	純銀
四十全	.....	0.010	0.010	
二十五全	.....			
十全	.....	0.150	0.150	

附金貨ハ秤量十「キログラム」ニ付五「グラム」ヨリ増減アル可ラス  
而シテ右ニ揭示スル規定ハ凡テ三王國內純金銀ヲ秤定スルノ  
基本タル可キ

第八條 貨幣ハ渾テ其縁ヲ厚ク鑄造スヘシ而シテ二十五「オールド」  
ト十「オールド」トノ貨幣ハ其側面ヲ滑クニ製シ此他金銀貨  
ハ皆其側面ヲ刻ムヘシ又貨幣面ニハ明クニ其價格ト鑄造  
年紀トヲ記名シ且ツ其鑄造セル局名ヲ附スヘシ但シ便宜  
ニ依リ其國限り特ニ鑄造スルモノハ此限ニ非ラストス

第九條 以上ノ條款ヲ遵奉シテ鑄造セル貨幣ハ第十條ヲ遵用

レテ此三王國ニ於テ凡テ之ヲ造法ノ流通貨幣ト為ス但シ  
刻割等不正ノ所行ヲ以テ毀傷セルモノハ此限ニ非ス

第十條 凡ソ何人タリモ一口ノ拂方二十「クラオン」以上ナル片  
ハ一及モ二「クラオン」弗ヲ以テ受領スルヲ拒ムヲ得又五「ク  
ラオン」以上ナレハ小銀貨ヲ拒ムヲ得又一「クラオン」以上ナ  
レハ青銅貨ヲ拒ムヲ得ヘシ

金貨其流用ニ因テ原量ノ二歩ヲ磨耗セルモノハ大藏省ニ  
於テ之ヲ元價ノモノト為ス又其一步ノ二分一ヲ磨耗セハ  
一般流通上ニ於テ元價ヲ有セサルモノトス此他小貨幣磨  
耗シテ其何國ノ鑄造ニ係ルカラ辨マサレハ大藏省ニ於テ  
之ヲ元價ノモノト為サス又其面ニ表示セル價格ノ文字ヲ  
辨マサルニ至ラハ一般流通上ニ於テ元價ヲ有セサルモノ  
トス是ヲ以テ一般流用上凡テ通幣ノ用ヲ欠ク所ノ貨幣ハ

大蔵ヨリ再々之ヲ發行セス故ニ亦銀貨ノ磨耗原量ノ四半  
 乃至此以上ニ至ラハ上ト同レ云々  
 以上記スル所ハ其條款ノ要領ニシテ此他尙ホ教條アレバ之ヲ  
 略ス蓋シ其數條ハ各王國ニ此新法ヲ施行スルノ手續ヲ定ムル  
 ノ事ニ係ル而シテ右條款ハ未タ之レヲ確定批准セストモ  
 便宜次第「ストツクホーム」ニ於テ之レヲ本條約ニ定メ遅クモ千  
 八百七十五年一月一日迄ニ三國相共ニ施行スヘキモノトス

和田信郎譯

佛國ノ部

- (イ) 貨幣調査委員ノ疑問ニ應答シテ公使「ワツレエホルン」ヨリ國務卿宛ノ書
- (ロ) 千八百七十六年一月一日ヨリ同年十一月三十日迄ノ貨幣鑄造表
- (ハ) 千八百七十六年一月一日ヨリ同年十一月三十日迄ノ金銀輸出入表
- (ニ) 美術用ノ為メニ保証局ノ捺印ヲ經タル金銀量目表

謹テ白ス嘗テ歐洲ノ理財家及テ經濟學士ヲシテ一時刮目セシ  
 メタル所ノ銀貨ノ墮落ハ愈々甚シク終ニ今日ニ至テ英佛獨  
 政府ヲシテ憂苦セシムルニ至レリ蓋シ亦過多ノ銀貨ヲ有スレ  
 ハ也(英國ハ印度地)然リ而シテ其銀貨墮落ノ勢力愈々感シニシ  
 テ動モスレハ我國ノ財政ニ干渉スル所亦鮮サトセス且ツ其害  
 波及シテ万國貿易ヲ破壊セントスルノ危殆アルヲ以テ佛國ノ  
 經濟達士々交々豫防ノ方略ヲ画スルニ至レリ  
 今歐洲各國ヲ分テ二ト為シ一ヲ金貨單格本位ヲ用ユルモノト  
 為シ一ヲ金銀貨復格本位ヲ用ユルモノトス乃チ英國獨逸及ヒ  
 和蘭ハ金貨本位ナリ但シ英國ノ如キハ本位貨幣ヲ金貨ノ外ニ  
 認ムルモノナシトスト雖ヒ其屬地印度ニ於テハ銀貨ヲ除ケノ  
 外ニ通貨ナシ又獨逸ニ至テハ纒ニ本年一月一日ヨリ金貨本位



ヲ採用シタル所ナリ

又佛國、伊太利、白耳義、瑞西、蘭土、希臘ハ金銀債本位ナリ但レ此部  
中ニ一時獨逸國ヲ編入スルモ亦不可ナルナレ如何トナレハ最  
者此國ニ於テ從來ノ銀債ヲ悉ク徵収交換セントニ從事シテ終  
ニ本年一月一日以降獨リ金貨幣、マー、クヲ以テ違法通貨ト決定  
セリト雖レ從來ノ銀債、テ、ラ、ルニ通用期限ノ定ムナキヲ以テ  
未タ其流用ヲ見レハ也而シテ魯斯、奧、斯、多、利ノ如キハ流用通  
貨ト称スヘキモノハ到底紙幣ニ外ナラサルカ故ニ之レヲ不問  
ニ付ス

蓋レ復格本位貨幣法ハ素ト金銀價格ノ比較ヲ確乎不易ノモノ  
ト姑ク断定スルニ非カレハ到底之ヲ維持スルヲ能ハルモ  
ノ也故ニ仙國ニ於テ千八百三年即チ共和政府十一年ニ制定シ  
タル金銀價格ノ比較ハ今日ノ貨幣法ノ基本ニシテ一ト十五半

ノ割合（復令ハ金ニオン、スハ銀幾許ニ當ルヤヲ算スルハ此割  
合ニ從テニオン、スハ十五半ヲ乘スルハ其銀量ヲ得ル

リ）即チ是ナリ而シテ上ニ記載セル六國（伊太利、獨逸、和蘭、白  
耳義、希臘、瑞西、蘭土）相尋

テ此割合ヲ採用シ數十年間幾ント金銀比較價格ノ錯乱ヲ見ナ

リシカ、タリ、フ、オ、ル、ニ、ヤ、ニ、金、山、ノ、發、見、ア、リ、シ、ヨ、リ、政、州、諸、國、相、共

ニ金債ノ墮落ヲ憂虞スルニ至レリ即チ和蘭國ノ如キハ其憂慮

モ篤クシテ忽チ金債ヲ以テ違法通貨ニアラサル旨ヲ決議スル

ニ及ヘリ然レ其墮落意外ニ僅クニシテ未タ幾モナラスレテ亦

旧ニ復シ一ト十五半トナレリ

然ルニ千八百六十七年ニ終ニ亦此割合破壞シテ銀價下落シ金

價騰貴セシカ、違、々、佛、國、ニ、万、國、博、覽、會、ノ、開、設、ニ、際、ス、ル、ヲ、以、テ、即

チ巴黎ニ萬國貨幣會議ヲ開ク其旨趣ハ萬國貨幣ノ基本ヲ一定

メント欲スルニ在リ而シテ我政府ヲ始メ其他文明諸國ヨリ派

出シタル所ノ委員ハ皆拔群ノ理財家ナリ

大 後 皆

今其衆論ノ熾著スル所ヲ見ルニ金貨ノミヲ以テ本位貨幣トス  
而シテ此時ヨリ銀貨ノ價值ハ漸ク墮落シテ千八百七十二年ニ  
ハ其下落僅カニ二分ニ止マリシカ七十二年ニ至テハ三分ニ増  
加セリ於是乎佛國政府ハ其墮落ヲ將來ニ防カント欲シテ銀貨  
ノ鑄造ニ制限ヲ設ケタリ是所謂共和政府第十一年制定ノ貨幣  
法ノ旨趣ニ乖戾シタルモノト云フヘシ如何トナレハ此貨幣法  
ニ拠レハ何人タリ（中外人民ヲ問ハス）地金アラハ其改鑄ヲ請求スルノ  
權利アルモノトスレハナリ而シテ斯ク豫防ヲ設ケタリト雖モ  
其墮落漸ク甚タシク千八百七十四年ニ低下四分ニ至レリ是素  
ヨリ意外ノ變事ト雖モ抑モ其墮落ヲ養成セルモノハ職トシテ  
獨逸國ノ措置ニ因ルモノトス

テ之カ為メニ遽然國幣ノ富賸ヲ致セルヲ以テ旧法ヲ改メテ本  
位貨幣ヲ金貨一種ニ定メント決レ乃テ現時國內ニ流用セル所  
ノ外國貨幣ヲ以テ爾來適法通貨ニアラサル旨ヲ布告シ尋テ南  
部獨乙及ヒ「ハンシマスチツクシテ」（北部分獨乙聯）ニ流通セル所  
ノ「フロリオン」銀貨及ヒ其他ノ銀貨ヲ徵收交換セント決レ千  
八百七十六年一月一日以降ハ適法貨幣ハ獨リ金貨「マーク」一  
種ナル旨ヲ公布シ以テ十及ヒ二十「マーク」金貨ヲ十二億ノ高マ  
テ新造マントニ決議シタリ今此新法ヲ奉行スルニ當リ目下流  
通ノ「テール」貨幣ハ之ヲ徵收セサル可カラスト雖モ其高七億  
四千万「フランク」ノ巨額ニシテ且ツ一時ニ之ヲ徵收セハ必ス其  
弊害ヲ來スノ患アルヲ以テ漸次ニ之ヲ行ハント欲シ乃チ一ト  
十五半ノ割合ヲ以テ「テール」ヲ金貨三「マーク」ニ適當シテ姑  
ク從前ノ如ク之ヲ適法通貨トナセリ而シテ一ト十五半ノ割

合ハ復格本位ヲ採用スル國ニ於テ用ユル所ニシテ乃チ一「テ」  
ラルノ重量ハ金貨三「マ」クノ十五倍半ナルノ謂ナリ  
以上ニ述フル如ク獨逸國貨幣法ノ主義ハ單格本位法ニシテ「テ」  
ラル貨幣ハ一時ノ通用貨幣ニ過スレテ素ヨリ之ヲ増鑄スルヲ  
為サスト雖モ其實ハ復格本位ニ異ナラス如何トナレハ「テ」  
ル銀貨又ハ「マ」ク銀貨ト「マ」ク金貨トノ相場ニ聊カ違差ヲ生  
セスレテ現ニ其相場ノ平均ナルヲ見レハ也然ルニ外國ニ於テ  
ハ其相場ニ違差ヲ生シ既ニ銀貨ノ墮落セル「テ」アリ是ヲ以テ獨  
乙國ノ銀行ハ皆内ニシテハ其債ヲ拂フニ銀貨ヲ用ヒ外ニシテ  
ハ其仕拂方ヲ為スニ金貨ヲ用ユルカ故ニ其政府ハ銀貨下落ノ  
相場ヲ以テ自己ノ金貨ヲ外國ヨリ買収シテ常ニ多少ノ損失ヲ  
受ケタリ

獨乙國ノ景情此ノ如キカ故ニ其政府ハ徵收シタル所ノ銀貨「フ

ロ」リシ及ヒ「テ」ラルヲ以テ當時（四年八百七十）復格本位ヲ採用  
スル諸瑞伊白國ニ送テ「フ」ラシク「若クハ「ラ」イル」貨幣ニ改鑄セント  
欲スルノ色アリ是其諸國ニ於テ常ニ批念シタル所ナリ如何ト  
ナレハ先ツ獨乙ヨリ其銀貨ヲ送致シテ「フ」ラシク「若クハ「ラ」イル」  
貨幣ニ改鑄スル「テ」アラシメハ忽チ金銀貨ノ相場ヲ攪乱スルノ  
患アレハナリ況ンヤ此等ノ國ハ銀貨ヲ違法通貨トナシタレハ  
何國ノ人タリモ銀ヲ出スモノアラハ改鑄セサルヲ得スレテ決  
シテ其政府ニ於テ之ヲ拒ム「テ」能ハサルニ於テ「ヤ」  
且ツ獨國カ其徵收銀貨ヲ遠ク英國若クハ米國ニ賣却セントナ  
ラハ素ヨリ不利ナラサルヲ得ス故ニ諸國ニ於テ其改鑄セント  
ラ恐ル「モ」亦其理由アルモノト云フ可シ是羅典同盟ノ因テ起  
リシ所以也抑モ此同盟ノ旨趣ハ銀貨ノ鑄造ニ制限ヲ立テ其墮  
落ヲ未然ニ防カント欲スレニ在リト雖モ其實ハ銀貨ヲシテ本

位貨幣ノ位置ヲ失墜セシメ獨リ金貨ヲ以テ本位貨幣トナスニ  
異ナラス而シテ此同盟ハ素ト佛國ノ發議ニシテ千八百七十四  
年ニ巴黎ニ於テ白、伊、瑞ノ三國ト共ニ締約シタル所ニシテ此年  
ノ鑄造高ハ各一億二千萬フランクヨリ増加スヘカラサル旨ヲ  
締盟セリ

斯ク銀貨墮落防止ノ策ヲ施セシト雖其効功ナクシテ銀貨漸  
次ニ墮落シ千八百七十四年ノ末ニ五分ノ墮落ヲ生セシカ故ニ  
明年ニ至リ第二回會議ヲ開キ乃チ此年ノ鑄造高ヲ一億五千萬  
フランクニ決定セリ然レ其墮落愈々甚レシテ既ニ本年春第  
三回會議ヲ開キシハ八分ノ下落ヲ見ル於是乎本年ノ鑄造高  
ヲ更ニ減節シテ佛國ハ五「フランク」貨幣ニテ僅ニ五千四百萬「フ  
ランク」(七十五年ニハ)トナシ伊國ハ三千五百萬「フランク」(五十年  
ニハ五千)トナシ白國ハ一千零八十万「フランク」(七十五年ニハ一  
千五百萬ナリ)

トナシ瑞國ハ七百二十萬「フランク」(七十五年ニハ)トナシ且ツ新  
ニ同盟ニ加ハリタル希臘ハ一千五百六十萬「フランク」ヲ鑄造シ  
其内八百四十萬「フランク」ヲ以テ旧銀貨ト交換スヘキモノトセ  
リ  
此ノ如ク一層減サセリト雖其下落愈々劇シク僅ニ二ヶ月間  
ニ三四分ノ下落ヲ生シ法制上ノ金銀比較價格ト實地取引上ノ  
價格トノ差違一割二分乃至一割三分トナルニ至レリ此時方ニ  
佛國議院ノ開場ニ際スルヲ以テ大藏卿「リオンセー」氏ハ嚮ノ同  
盟會議ニ於テ定メタル所ノ銀貨鑄造高ヲ今一層減節セントノ  
議案ヲ紹介セリ蓋シ嚮ノ同盟會議ニ於テハ其鑄造高ノ竅高度  
ヲ定メタル而已ニシテ其減額ノ制限ナキカ故ニ千八百七十四  
年五年ハ其定額通り悉皆鑄造シタレハ也且ツ其定額ヲ減サス  
ルカ如キハ佛國法律ノ許ササル所ナレハ也

大蔵卿カ其議案ヲ本月二十一日ニ議院ニ出セシヨリ一大議論ヲ生シ非凡ノ理財達士「デバリユ」氏ハ痛ク復格本位ノ主義ヲ難セシカ佛國銀行取締役「ロラン」ト氏ハ能ク之ヲ辨駁セリ要スルニ新法ノ以テ美果ヲ結成スルヤ否ヤノ論題ナリ余竊ニ思フク此議案ヲ採用スルニ至ルヘシト雖ハ佛國ニ於テ全ク銀貨ノ鑄造ヲ廢止シタレハトテ果シテ其墮落ヲ防クニ足ルカ然ラサルモ亦幾分カ之レヲ抑止スルカ我輩ノ未タ疑ヲ解ク能ハサル所ナリ

抑モ此一大議論ニ付歐洲ノ經濟學士及モ理財家ノ論分レテ二派トナリ一ヲ「モノメタリス」ト云フ則チ金貨一種ヲ以テ本位貨幣ト為スヘキヲ唱フルナリ一ヲ「ビメタリス」ト云フ則チ金銀二種ヲ以テ本位貨幣ト為スヘキヲ説クナリ乃チ前者ノ論黨ニ伯林ノ「ロイス」、バンベルグノ「維也納」、マツキス、ウヰルス、ブ

ラツセルスノ「フレール」オルバン、ベルンノ「フォーアヘルグット」、佛國ノ「ミツチエル」、チバリール「テバリユ」ウヰクトル、ボネツト「フレッド」、バツセ「リロイ」、ビユ「リユ」ノ諸子アリテ其重ナル論壇ハ倫敦ノ「理財新聞」及モ巴黎ノ「評論新聞」、理財新聞ナリ又後者ノ論黨ニ白耳義國大蔵卿「マロー」、ブラッセルノ「ラベレー」、アラルド「チエーリン」ノ「カオント」、スクロピス、佛國ノ「リオン」、セ「マク子」ウオロス「キー」、エンドリユ「ゴールセル」、セニユ「イル」ヘンリ、セルニユスキ「ノ」ノ諸子アリテ其重ナル論壇ハ「レール」新聞及モ佛國共和新聞ナリ

今單格本位論黨ノ論旨ヲ採約スルニ曰ク金銀價格錯乱ノ一大原由ハ銀量ノ過多ナル所以ニシテ幾ント皆万国ニ於テ銀貨ノ鑄造ヲ制限セントスル時ニ當リ米國ニ一大銀山開掘ノ舉アリテ之カ為メニ遽然其權衡ヲ全ク破壊シ尚ホ今ニシテ之ヲ挽回

セント欲シ種々ノ方略ヲ施セシモ皆常ニ其功ヲ見サル所ナリ  
然リト虽氏之ヲ全治スルニ一ノ方略アルアリ即チ復格本位ヲ  
廢止レテ金貨一種ヲ以テ貨幣本位トナスニ在リ今若シ之ヲ舉  
行セハ金銀價錯乱ノ患ヲ将来ニ滅絶ス可シ蓋シ復格本位法ニ  
從ヘハ金銀何レニテモ偏ニ其一過多ナレハ立トコロニ其弊ヲ  
生スルハ必然ノ勢ニシテ其實乱レテ其名正シ是其權衡ヲ法則  
ニ取ル所以ナリト

又評論新聞記者「リロイビューリユ」氏ナル經濟學ノ達人カ  
持論ト老練ナル理財家「バリエ」氏カ議院ニ稟告シタル所ノ  
議論トヲ復格本位論黨カ駁スルト左ノ如シ

抑モ銀貨墮落ノ原ハ其過多ナルニ因ルニ非スレテ却テ銀貨鑄  
造制限法ト銀貨流通高ヲ減サシタルトニ根底ス加之世間用銀  
ノ道漸ク減シ隨テ其需要ノ減省シタルヲ以テ其墮落ヲ促シタ

二二

ルモノ、如シ今試ニ單格本位法ヲ奉行セハ愈々銀價ヲレテ墮  
落セシメ遂ニ理財上不測ノ禍害ヲ来スハ必然ナルヘシ故ニ今  
ニシテ此禍ヲ避ケンニハ先ツ銀貨鑄造制限ニ係ル一切ノ法則  
ヲ廢止シ銀價ヲレテ自然ノ實價ニ復セシムルノ策ヲ盡スルニ  
在リ試ニ思ヘ目下復格本位法ヲ採用スル所ノ諸國ヲシテ其制  
限法ヲ廢停シ旧來各國ノ間ニ認得シタル一ト十五半ノ割合ヲ  
以テ將來金銀價格比較ノ定規タルヘキ旨ヲ法令ヲ出サシメハ  
必ス其比較ノ錯乱齟齬スルヲ見サルヘシ如何トナレハ金ト云  
ハ銀ト云フモ金銀ハ素ト一物一物而已故ニ金銀何レニテモ其  
一ヲ増減スル所ハ此一物一物ニ影響ヲ及ハスモノニシテ決シ  
テ其一ニ偏スル所ナシ是故ニ交易ノ媒トナリテ物ヲ買フノ能  
カハ二者一体ノ多寡ニ因テ其低昂ヲ共ニスヘシ要スルニ金ハ  
銀ノ變体銀ハ金ノ變体ナルカ故ニ其一ニ増減ヲ生スル所アル

モ之カ為ニ二者ノ權衡ヲ乱ムヲ莫ルヘシト  
以上ノ論理ハ家モ熱心ナル論者ヘンリセルニユスキ「氏カ主  
トシテ唱フル所ニシテ稍々衆論ノ意表ニ出タルモノ、如シ且  
ツ同氏カ編輯スル「シークル」新聞ヲ見ルニ飽マテ復格本位ノ主  
義ヲ主張捍防シ其論スル所ハ皆理財家ノ依テ以テ著目スルニ  
足ルモノト虫氏其論ノ深長ナル余茲ニ枚挙ニ堪ヘス且ツ此他  
諸雜誌中見ルニ足ルモノ夥多アリト虫氏茲ニ記セス  
今復格本位論者ノ中ニ就キ其家モ著顯ナル論ヲ採擷セン乃チ  
其論ニ二種アリ一ニ曰ク銀貨鑄造制限ノ措置ヲ施行セシヨリ  
俄然銀價下落ノ色ヲ現出シタリト虫氏是ハコレ偶然而已其措  
置アリシカ為ニ非ナル也故ニ仮令其法ヲ設ケナリシト虫氏其  
下落ヲ見ルヤ疑フ可ラスト又其二ニ曰ク金銀價ノ大錯乱ヲ致  
セルハ各國奉テ單格本位ヲ採用シタルニ因ルヲ以テ之ヲ醫ス

二、三

ルノ策ハ流通ノ銀貨ヲ徵收スルニ若クナシト  
今第一論ニ從ヘハ銀貨ノ墮落ヲ防カン為ニ其鑄造ヲ制限シタ  
ルモノト云ヘル單格本位論者ノ論ヲ駁撃シタル而已又第二論  
ニ從テ金銀價錯乱ノ原ヲ詳カニセンニハ先ツ佛國獨乙英領印  
度ノ三國ヲ引証シ以テ銀貨流通ノ高ヲ計算セハ大ニ解スル所  
アルヘシ乃チ佛國ニ於テハ千七百九十五年ヨリ千八百七十一  
年ニ至ル銀貨鑄造高ハ五十一億二千一百万フランクニシテ内  
二億三千六百万ハ政府既ニ之ヲ徵收マリ而シテ現今ノ計算ニ  
拠レハ此殘額ノ内五、フランク銀貨ニテ二十億乃至十五億ノ高  
ハ現ニ此國ニ存在シ此内ニハ銀行ノ庫中ニ藏タルモノ大約四  
億九千五百万ナリトス今若シ四億ヲ以テ此國日用流融ノ資ト  
看做ス片ハ尚ホ其徵收スヘキ高ハ八億乃至十一億ナルヘシ  
又獨逸ニ於ケル銀貨鑄造總額ハ柏林發行ノ官報ニ拠レハ千八

百七十一年迄ニ六千八百方磅(英領「カシド」ノ計算ナリ)トス而シテ現  
今ノ計算ニ拠レハ現高二千一百万磅トス今若シ輸出或ハ溶解  
ノ為ニ虚尽セルモノヲ一千七百万磅ト看做スモ尚ホ三千万磅  
即チ七億五千万「フラン」クテ徴収スヘキモノアリ  
又印度ニ於テハ正確ノ統計ナキヲ以テ其高ヲ知ルニ由ナシト  
虽氏衆説ニ拠レハ其現在発行高ハ一億五千万磅ニ下ラスト云  
フ今之ヲ異常ノ大数ト思フヘシト虽氏其地ノ人口英國ニ七倍  
ニ加之金貨ノ流用ナキヲ思考スルハ其大数ニ非カルヲ知ル  
ヘシ而シテ亦此地ニ於テ徴収スヘキ高ヲ十五億乃至二十億「  
フラン」クオリトセハ佛獨印度ノ三國ノミニテモ潜匿シテ流融ノ  
用ヲ欠ク所ノ銀貨幣ハ少クモ三十五億「フラン」クニ下ラサル可  
シ(凡ソ七億ニ當ル)是皆政府ニ於テ莫大ノ割引ヲ以テ徴収セサルヲ得  
ル所ナリ

二四

斯ク世上ニ銀貨ノ用ヲ欠クモノアルハ復格本位法ヲ廢停シタ  
ル結果タルヲ窺知スルニ足ルヘシ果シテ然ラハ単格本位論者  
カ主張スル所ヲ各國奉行セシメハ愈々字内ニ其弊害ヲ蔓  
衍セシムルニ外ナラス然モ單格本位法ハ果シテ非復格本位法  
ハ果シテ是ナルカヲ極論スルニ至テハ輕々余カ管見ヲ下ス  
欲セサル所ニシテ之ヲ字内万邦ニ係ル一大議論トス唯我輩ハ  
上ニ概陳セル所ヲ以テ貴下幸ニ佛國ノ景情ヲ推考シ以テ其是  
非ヲ明晰スルノ資ト成ルヲ乞フ頓首再拜  
千八百七十六年三月二十七日

在巴黎公使館

「イノ、ロ、ワレ、ボ、ル」謹誌

國務卿「ハミルトン」ヲ「レ」閣下



ロ 千八百七十六年一月一日ヨリ同年十一月三十日迄ノ貨幣鑄造表

二十「フランシク」金貨	五「フランシク」銀貨	合計
一五六、一五七、七二〇	四二、四〇、五二五	二〇、七二九八、二四五
十「マンチー」青銅貨	五「マンチー」青銅貨	合計
九、九、六〇一、八〇	一七二、六五二、五〇	二七二、二五四、三〇

〔八〕千八百七十六年一月一日ヨリ同年十一月三十日迄ノ金銀  
 輸出入表

表中、レハ百万位ニシテ、フランクナリ

金輸入		金輸出	
地金	貨幣	地金	貨幣
九三、三五二	四八〇、六〇一	二、二七一	八四、三五八
合計	合計	合計	合計
五九、五六六	二二八、五九一	一八、九四二	三九、八〇一
合計	合計	合計	合計
銀輸入	銀輸出	地金	貨幣
七六二、一一〇	一四五、三七二	同上輸出	同上輸出
金銀輸入總計	金銀輸出總計	差引輸入増額	差引輸入増額
三、五七一	三、三〇一	二七〇	二七〇

二六

〔二〕美術用ノ為メニ保証局ノ檢印ヲ經タル金銀量目高

年度	金	銀	年度	金	銀
千八百五十五年	一〇、六三三、〇六〇	八八、五二二、三九八	千八百六十六年	一五、二三四、五六六	七四、五五五、六七七
千八百五十六年	一〇、六六九、一七〇	一〇、八九六、五五四	千八百六十七年	一五、〇二二、九四七	七三、三五八、六七七
千八百五十七年	一四、五九〇、九四〇	八九、九三六、〇一〇	千八百六十八年	一四、九六六、七二〇	七六、四〇一、〇八八
千八百五十八年	三、八三一、〇九一	八七、五九二、三三〇	千八百六十九年	一四、八九六、〇三二	七二、二九四、三五二
千八百五十九年	三、二八二、八〇九	八九、三〇四、三一七	千八百七十年	一〇、八五七、一八一	四九、六八六、九九四
千八百六十年	一四、四六〇、五九四	九四、三九一、九四一	千八百七十一年	九、四〇三、〇二九	五五、七五五、六九四
千八百六十一年	三、九九五、五二一	九三、一六九、四三八	千八百七十二年	一四、九六三、二一八	九六、七三九、七七六
千八百六十二年	一五、三八四、五〇九	九一、九六六、九八一	千八百七十三年	三、〇六五、七七一	一〇、五八六、六四三
千八百六十三年	一六、四三六、四六七	八九、七五八、三三七	千八百七十四年	一四、一九四、五七六	七三、三九四、九三四
千八百六十四年	一五、九一三、一二一	七四、八七一、六八八	千八百七十五年	一四、九二一、六六〇	八一、六三四、四六七
千八百六十五年	一五、四一五、〇一五	七三、三〇七、七七八	千八百七十六年	一〇、二五七、四三二	五五、六〇六、三三五

但シ千八百七十六年八月迄ノ分ナリ

獨逸國ノ部

(イ) 公使附屬書記官「フヨシユヨリ」造幣規則ヲ封入シテ國務卿宛ノ書

(ロ) 右封入千八百七十一年十二月四日制定造幣規則

(ハ) 同千八百七十三年七月九日制定造幣規則

(ニ) 貨幣調査委員ノ疑問ニ答書ヲ封入シテ公使「カビット」ヨリ國務卿宛ノ書

(ホ) 右應答書

(ヘ) 貨幣調査委員ノ疑問ニ對シ在「ハンボルグ」白耳義總領事「エム、ノルツム」ノ應答書

拜啟九月十八日附ノ廻章ノ尊趣ヲ奉レ即チ茲ニ千八百七十一年十二月四日及ヒ千八百七十三年七月九日制定ノ獨逸帝國造幣規則書ヲ封送ス曩ニ千八百七十三年四月十六日附尊書第三十八号ノ貴意ニ從テ右造幣規則書ヲ「バンククロフト」氏ヨリ同月十月ニ造幣局主長ニ致セル「ア」リト雖モ本月五日附ノ拙翰ニ付未タ外務省ヨリ有無ノ廻答ヲ得サルカ故ニ我輩不取敢再ヒ之ヲ送致スルモノ也

今其規則ニ從テ千八百七十六年十月七日迄ニ鑄造セル貨幣總額ハ十七億九千〇四十七万一千一百五十八「マルク」ニシテ其細目左ノ如シ

金貨	一、四二五、一九三、三六〇、〇〇
銀貨	三二二、五四四、九七七、三〇

白銅貨

三三、五五六、五二三、八〇

銅貨

九、一七六、二九七、六三

右貨幣價格ノ種類表ヲ「ナレヨナル、ゼイタング」(新名)ヨリ取出シ  
別紙ニ付シテ高覽ニ供ス頓首百拜

千八百七十六年十一月二十三日

在伯林米國公使館附屬書記官

ニコラス、フ#シユ謹白

國務卿、ハミルトン、フ#シユ閣下

口

千八百七十一年十二月四日制定獨乙國金貨鑄造規則及訳

第七百四十  
五号布告

天祐ヲ受テ以テ獨逸國ノ帝及「ウ」字魯士國等ノ王タル我輩「ウ」  
ルリアム」茲ニ共和議貨及「ウ」帝國公會ノ批准ヲ經テ金貨鑄造規  
則ヲ頒布スル「ウ」左ノ如シ

第一條 純金壹磅(獨乙「ウ」)ノ量目ヲ以テ十「ウ」マーク金貨百三十  
九箇二分一ヲ鑄造スヘシ

第二條 右十「ウ」マーク金貨ノ十分一ヲ以テ一「ウ」マークト称名シ又  
其百分一ヲ以テ一「ウ」マンニツ「ウ」ト称名スヘシ

第三條 第一條ニ掲ケタル十「ウ」マーク金貨ノ外ニ亦二十「ウ」  
ノ金貨ヲ純金一磅ノ量目ヲ以テ六十九箇四分三ヲ鑄造ス  
ヘシ

第四條 性合ハ金九銅一ノ割合ニシテ十「ウ」マーク金貨百二十五

箇五五又ハ二十「マ」ク金貨六十二箇七七五ハ其重量各一  
磅(ドナリ)タルベシ

第五條 金貨ノ一面ニハ鷹トウ何「マ」ク及ヒ鑄造年月ヲ記シテ  
獨逸貨幣ノ文字ヲ載セ又一面ニハ各地君長ノ肖像ヲ記シ  
其鑄造スル造幣局ノ印ヲ記スヘシ但シ自由都府ニ係ルカ  
ハ其地一般ニ関スル記章ヲ載スヘシ而シテ其徑ノ寸法及  
ヒ縁ノ模様ハ共和議貨ノ決定スル所ニ從フ可シ

第六條 現今流通銀貨徵收ノ令ヲ発行スル迄ハ新金貨ノ鑄造  
ハ聯邦中之一ヲ擔任スヘキ旨ヲ豫メ公告スル所ノ國ニ於  
テ後事スヘシ尤モ其費用ハ帝國ヨリ供辦スヘキ事  
帝國大臣ハ共和議貨ト協議シテ其鑄造高ヲ定メ貨幣ノ種  
類ヲ分チ以テ諸造幣局ニ配當シテ各其鑄造スル高ニ從テ  
費用ヲ支給スヘシ又其鑄造高ニ應スル金塊ハ大臣ヨリ之

ヲ交付スヘシ

第七條 金貨鑄造施行ノ手續ハ共和議貨之ヲ確定シ帝國ニ於  
テ之ヲ管理シ以テ貨幣價位及ヒ量目ヲ精細明確スルニ而  
シテ緻密ノ及ハサル所ハ公差アリト雖モ其全量ハ千分ノ  
二半ヨリ増減アル可ラス又純金ノ量目ハ千分ノ一ヨリ増  
減アル可カラス

第八條 南獨逸「リ」ユー「ベ」ツキ又ハ「ハン」ボルクノ通用「テ」ラ  
銀貨又ハ「ブレ」メン「ン」通用「テ」ラ「ル」金貨ヲ以テ從來諸般ノ仕  
拂ヲ為シ得ルカハ今回鑄造ノ金貨ヲ以テ同様ニ用フルヲ  
得ルナリ但シ其割合ヲ定ムル左ノ如シ  
新金貨十「マ」クハ南獨逸通幣三「テ」ラ「ル」三「分」一又五「マ」  
ク「ロ」ー「リ」ン「ン」五「十」ク「ル」イ「ツ」ル「〇」リ「ユ」ー「マ」ツ「ク」又ハ「ハン」ボ  
ルク通幣八「マ」ク「五」ス「キ」ル「リ」ン「グ」三「分」一「〇」「ブレ」メン「ン」金貨

三「テ」ラ「ル」九十三分一ニ算当スヘシ

新金貨二十「マ」ークハ南獨逸通幣六「テ」ラ「ル」三分二又十

一「フ」ロ「ー」リ「ン」四十「レ」イ「ツ」ル「〇」リ「ユ」ー「ベ」ツ「ク」又ハ「バ」ン

「ボ」ル「グ」通幣十六「マ」ーク十「ス」キ「ル」リ「ン」グ三分二〇「レ」メ

「ン」金貨六「テ」ラ「ル」九十三分二ニ算当スヘシ

第九條 新造金貨幣ノ全量ハ第四條ニ掲ケタル本位量目ヨリ

減サスル「一」千分五ヨリ多カラサルモノニシテ(公差)且ツ不

正ノ所為ヲ以テ苟モ減耗スル所「ア」キカ故ニ十分ノ量目ヲ

含包セルモノトシテ諸般ノ仕拂ニ之ヲ用フヘシ故ニ帝國

各地又ハ諸自由都府ノ出納司并ニ諸銀行及ヒ金銀貸借ヲ

業トスル者ニ於テ諸仕拂向ニ受取ルヲ得ルモノトモモ新

ニ之ヲ発行スルヲ許サス而シテ此貨幣流融ノ久キ終ニ其

量目ヲシテ石ニ掲ケタル公差ヨリ減耗シタルハ獨逸一

統ノ費用ヲ以テ鑄解ノ為メニ之ヲ交換スヘシ而シテ未タ  
之ヲ交換セサル間ハ仮令其量目ニ減耗スル所アリトモ此  
帝國及ヒ聯合諸國ノ出納司ニ於テハ元價ヲ以テ之ヲ受取  
ルヘシ

第十條 茲ニ掲ケタル所ノ金貨ノ外ニ金貨若クハ大銀貨ヲ鑄造  
セントスルハ更ニ此旨ヲ公布スルニ非サレハ鑄造スヘ  
カラス但シ賞牌ハ此限ニ非ストス

第十一條 新金貨鑄造高ニ從テ獨逸聯邦ノ現在流用金貨ヲ帝  
國ノ費用ヲ以テ徴収スヘシ而シテ之ヲ徴収スルハ権カハ  
曩ニ大銀貨幣ヲ徴収セルキト等シク帝國大臣之ヲ有スル  
モノ也又帝國大蔵省ニ於テ此銀貨交換ノ為ニ備ヘ置キタ  
ル資本ヲ以テ徴収セル手續ノ如ク大臣ニ於テ徴収スルノ  
権カアルモノ也

右ノ権カヲ施行スルニ當リ大臣ハ帝國公會毎年初回ノ開  
場ニ於テ其手續書ヲ差出スヘシ

第十二條 此規則ニ從テ鑄造スル所ノ金貨幣ノ面ニ本位量目

及ヒ通用量目ヲ名印スヘシ而シテ此量目ヲ名印シ及ヒ之

ヲ衡定スルニ付テハ千八百六十八年八月十七日制定度量

衡規則第十條及ヒ十八條ニ從フヘシ

第十三條 「バワリア王國ニ於テ若シ止ムヲ得サレハ「マンニツ

」貨幣ヲ細分シテニ「ペンニツ」ヲ半ト為ストヲ得ヘシ

右ノ條々遵守ノ証憑トシテ余等茲ニ帝國々璽ヲ鈐シテ記名ス

ル」左ノ如シ

千八百七十一年十二月四日在柏林府

國璽

「ウキルリアム

「プリンス、ウキル、エン、ビスマーク

千八百七十一年十二月七日柏林府ニ於テ公布スルモノ也



ハ

千八百七十三年七月九日制定獨逸國造幣規則翻譯(第九百五十三

告号布)

天祐ヲ受テ以テ獨逸國ノ帝及々字魯土國等ノ王タル我輩「ウ」用ルリアム茲ニ共和議貨及々帝國公會ノ批准ヲ經テ獨逸帝國ニ代リ造幣規則ヲ頒布スル「左ノ如シ

第一條 金貨幣ヲ新造シテ現在諸國ニ流用セル貨幣ト同様ニ用フヘシ而シテ其原貨ハ千八百七十一年十二月四日制定ノ金貨鑄造規則第二條ニ定メタル如ク「マ」クタルヘシ又獨逸全國ニ於テ新貨鑄造著手ノ期日ハ共和議貨「協議」シ以テ發令スル勅詔ヲ以テ少クモ三ヶ月前ニ之ヲ布告スヘシ但シ此期日前ニ特詔「ル」モノハ其地方限リ之ヲ鑄造スルヲ得ルモノトス

第二條 千八百七十一年十二月四日ノ規則ニ掲ケタル金貨ノ

大  
新  
本

外ニ五「マ」クヲ鑄造スヘシ其割合ハ純金一磅ヲ以テ二百七十九箇ヲ鑄造スヘシ而シテ之ヲ鑄造スルニ右規則第四條五條六條七條八條九條ヲ適用スヘシ但シ第七條中増減公差ノ義ハ千分四タルヘシ又第九條中本位量目差違ノ義ハ千分八タルヘキ事

第三條 金貨ノ外ニ左ノ貨幣ヲ鑄造スヘシ

第一 銀貨 五「マ」ク、二「マ」ク、一「マ」ク、五十「ペン」ニツフ、二十「ペン」ニツフ

第二 白銅貨 十「ペン」ニツフ、五「ペン」ニツフ

第三 銅貨 二「ペン」ニツフ、一「ペン」ニツフ

右三種ノ鑄造ハ左ノ規定ニ從フヘシ

第一項 純銀一磅ヲ以テ五「マ」クヲ二十箇、二「マ」クヲ五十箇、一「マ」クヲ百箇、五十「ペン」ニツフヲ二百箇、二十「ペン」ニ

三四

ツフヲ五百箇ニ鑄造スヘシ而シテ其性合ハ銀九百銅百ノ割合ヲ以テ一磅ニ付鑄造高九「マ」クタルヘシ又其公差ハ千分三ヨリ増減アル可ラス但シ二十「ペン」ニツフノ公差ハ千分ノ十トス然レ此二十「ペン」ニツフ片ヲ合スルハ其本位量目ト本位純銀分トハ「マ」クノ量目ト符合セシムヘシ

第二項 一「マ」ク以上ノ銀貨ハ其一面ニ獨逸貨幣ノ文字帝

國記標ノ鷹紋造幣ノ年月及ヒ價值ヲ記シ又其一面ニハ地方君長ノ肖像若クハ自由都府ナレハ其府一様ニ係ル記標ヲ印名シ造幣局ノ印号及ヒ其地方ニ相当スル銘ヲ載スヘシ又其貨幣ノ往及ヒ縁邊ノ模様ハ共和議貨之ヲ定ムヘシ

第三項 白銅貨及ヒ銅貨ハ其表面ニ獨逸貨幣ノ文字造幣ノ

年月及ヒ價值名印シ又其一面ニハ帝國記號及  
 造幣局ノ印号ヲ記スヘシ而シテ右二種貨幣ノ性合量  
 目全徑及ヒ裏面縁邊ハ模様ハ共和議貨之レヲ定ムヘシ  
 第四項 銀貨、白銅貨、銅貨ノ鑄造ハ聯邦中何國ニテモ之ヲ負  
 擔スヘキ旨ヲ豫メ公布スル國ニ於テ從事スヘシ而シテ  
 其鑄造及ヒ發行ノ義ハ帝國ニ於テ之ヲ管理スヘシ又帝  
 國ノ大臣ハ共和議貨ト協議シテ其鑄造高、貨幣種類、及ヒ  
 諸造幣局ニ配分スル鑄造高ヲ決定スヘシ而シテ此高ニ  
 從テ其費用ヲ支給スヘシ又諸造幣局ニ地金ヲ交付スル  
 事ハ帝國大臣ノ命令ニ因テ之ヲ處分スヘシ  
 第四條 銀貨鑄造總額ハ他日ノ改正アルニ在ラザレハ帝國  
 人口ニ從ヒ一人毎ニ十「マルク」ノ割合ヲ超過スヘカラス而  
 シテ此等ノ銀貨ヲ發行スル毎ニ其高ニ應シ現在流用スル

所ノ粗悪ノ銀貨ヲ徵收スヘシ而シテ其交換ノ價格ハ第十  
 四條二項ニ從フヘシ  
 第五條 白銅貨及ヒ銅貨鑄造總額ハ帝國人口一人毎ニ一「マリ  
 ク」半ノ割合ヨリ超過スヘカラス  
 第六條 諸國奇零貨幣ノ内左ニ所掲ノ外ハ第一條ニ掲ケタル  
 造幣著手ノ期日ヨリ之ヲ徵收スヘシ  
 第一項 「バウリヤ」國ノ「ヘル」（貨幣名）及ヒ「（貨幣名）」（貨幣名）原貨ニ基キ鑄  
 造シタル「メクレンホルク」國ノ五「ペンニツ」（貨幣名）「ニッ  
 フ」（貨幣名）「メンニツ」（貨幣名）ヲ除クテ外「テラール」原貨ニ基キ鑄造シ  
 タル銀貨  
 第二項 「グロツマン」（銀貨名）ノ名ニシテ凡「銀貨十二進法」ニ屬  
 スル「ペンニツ」（貨幣名）「四」（貨幣名）「メンニツ」（貨幣名）ノ奇零貨幣  
 第三項 一「テラール」（貨幣名）ノ十二分一ニ當ル貨幣ヲ余キ

当ル奇零貨幣

但レ此奇零貨幣ハ造幣期日後ハ其償却ヲ負擔スル所  
ノ出納司ヲ除クノ外何人タリテ諸仕拂方ニ於テ之ヲ  
拒ムノ權利アルモノトス

第七條 第三條ニ掲ケタル銀貨、白銅貨及ヒ銅貨ノ鑄造并ニ銀  
貨及ヒ奇零貨幣ノ徵收ハ帝國ノ費用ヲ以テ為スヘシ

第八條 共和議貨ハ右貨幣徵收ノ手續ヲ定メテ之ヲ命スヘシ  
而シテ之ヲ徵收スヘキトノ旨ハ其地方ニ於テ撰フ所ノ新  
聞紙ヲ以テ公告シ兼テ又帝國官令新誌ヲ以テ公布スヘシ  
但レ徵收時限少クモ四周間ナルニ非サレハ其手續ヲ施サ  
ス又其時限滿了迄ノ時日ヲ算入シ此前少クモ三ヶ月内ニ  
此旨ヲ豫メ公告スヘキモノトス

第九條 何人タリテ新銀貨ハ諸仕拂方ニ二十「マーク」以上ノ高

ナレハ之ヲ拒ムノ權利アルモノトス又白銅貨及ヒ銅貨ハ  
一「マーク」以上ナレハ亦之ヲ拒ムヲ得ルモノトス然レ帝國  
及ヒ諸國ノ出納司ニ於テハ何程ノ高ニテモ之ヲ受取ルヘ  
シ又共和議貨ハ右出納司ヨリ諸般ノ拂方ニ新銀貨二百「マ  
ーク」以上ノ高ナル中ハ新金貨ヲ以テ拂フヘキヲ命スル  
ヲ得ヘシ又白銅貨及ヒ銅貨五十「マーク」以上ノ高ナル中モ  
亦新金貨ヲ以テ仕拂フヘキヲ命スルヲ得ヘシ又共和議  
貨ハ公私一切ノ取引上ニ用ユル為ニ相場ノ割合ヲ定ムル  
ヲ得ヘシ

第十條 第九條ニ掲ケタル相場ヲ以テ公私一切ノ取引上ニ履  
造貨幣若クハ副削ニ因テ減耗シタルモノハ適當セサモノ  
トス而シ銀貨、白銅貨、銅貨ノ流用久キニ因テ自ケラ其量減  
耗シ或ハ其模樣變耗シタルモノハ帝國及ヒ諸國ノ出納司

ニ於テ之ヲ受取ル而已ナラス帝國ノ費用ヲ以テ  
スヘシ

第十一條 茲ニ掲ケル所ノ銀貨、白銅貨、銅貨ノ外ニ此後貨幣ヲ  
鑄造スヘカラス而シテ千八百七十一年十二月四日ノ金貨  
鑄造規則(帝國官令新誌四)第十條ニ賞牌トシテ銀貨ヲ鑄造  
シ得ルノ權利ハ千八百七十三年十二月三十一日ニ消尽ス  
ルモノトス

第十二條 新造金貨ハ千八百七十一年十二月四日ノ金貨鑄造  
規則第六條ニ從ヒ帝國ノ費用ヲ以テ此後尚ホ之ヲ鑄造ス  
ルヲ得ルモノトス而シテ何人タリモ鑄造局ニ依頼セハ私  
費ヲ以テ二十「マー」クヲ鑄造スルヲ得ルモノトス尤モ石造  
幣局ハ帝國ノ為メニ造幣ノ事ヲ負擔スル局ニ非スレテ帝  
國ノ費用ヲ受得テ造幣ノ事ヲ負擔スヘキ旨ヲ公告スル所

ノ造幣局ニ限ルヘシ而シテ其鑄造手数料ハ共和議定ト協  
議ノ上帝國大臣之ヲ定ムヘシト雖モ純金一磅ニ付七「マー」  
クヨリ超過スヘカラス又此手数料ト該造幣局ニ於テ別ニ  
請求スル所ノ報酬金トノ差違ノ金貨ハ帝國大蔵省ニ納ム  
ヘシ而シテ此差違ハ獨逸國中何レノ造幣局ニ於テスルモ  
同一ノ高ナルヘシ又此報酬金ハ其大蔵省ニ納ムル所ノ金  
額ヨリ超過スヘカラス

第十三條 議定ハ左ノ権カヲ有スルモノ也

- 第一項 事宜ニ依リ外國金銀貨幣流用ヲ全ク禁止スルニ是  
ニ右貨幣流用價值ヲ制限確定スル
- 第二項 内國商業ノ為ニ中外貨幣ノ相場ヲ公布スルト雖モ  
帝國及ヒ諸國ノ出納司ニ於テ此相場ノ割合ヲ以テ外國  
貨幣ヲ仕拂ニ受取ルヲ拒ミ更ニ其割合ヲ確定スル

第一項ニ從テ共和議負カ定メタル所ニ違背スルモノハ百  
五十「マーク」ノ罰金ヲ課スルカ又六週間以内ノ鑄鋼ヲ命  
スルコトアリ

第十四條 新造貨幣流用ノ後ハ左ノ四項ヲ施行スルモノ也

第一項 新貨流用迄ハ從來ノ内國貨幣若クハ諸國ノ法則ヲ  
以テ内國貨幣ヲ外國貨幣ニ比較シテ之ヲ用テ諸般ノ仕  
拂方ニ供用シ来ルモノハ第九條十五條十六條ニ違背ス  
ル所ナクシテ新貨幣ヲ以テ之ヲ用ニ充ツヘシ

第二項 價格比較未ク確定セサル金貨ヲシテ銀貨ニ交替ス  
ル所ハ其純金ノ割合ヲ茲ニ掲クル所ノ新造金貨ノ純金  
ノ割合ニ取テ諸般ノ仕拂ヲ為スヘシ其他「テ」ラ「ル」ハ三  
「マ」クニ算当シ南獨逸貨幣「ギ」エル「テ」ン「ハ」一「マ」  
「ク」セ「ク」五ニ算当シ「リ」ユ「ー」ベ「ツ」ク「ノ」一「マ」  
「ク」及ヒ「ハ」ン「ボ」ル「ク」ノ

貨幣「グ」ラ「ン」ト「ワ」フ「ロ」ン「ク」ハ「一」  
「マ」  
「ク」五「分」一ニ算当スヘ  
シ而レテ此他右貨幣ニ准拠セル貨幣ハ此割合ヲ以テ算  
スヘシ又新貨「ベ」ン「ニ」ツ「フ」短數ノモノハ半「ベ」  
「ン」  
「ニ」ツ「フ」ニ算スヘ  
シ又半「ベ」  
「ン」  
「ニ」ツ「フ」以下ハ一般ニ算当セサルモノトス

第三項 新貨流用ノ後從來ノ通用貨幣ノ算當ヲ以テ負債シ  
タル所ハ其仕拂方ハ第九條十五條十六條ニ違背スル  
ナリ本條第二項ニ從テ新金貨ヲ以テ之ヲ為スヘシ

第四項 金銀取引上ノ事件ニ付裁判所ニ於テ製「レ」タル一切  
ノ文書又ハ「ア」  
「タ」  
「リ」  
「、」  
「パ」  
「ブ」  
「リ」  
「ツ」  
(諸証書類ノ確定ヲ保  
証スルヲ專業トスル  
モノ)  
ノ面前ニ於テ認メタレ一切ノ文書中ノ金貨ハ新貨幣  
ヲ以テ之ヲ明記スヘシ若シ裁判所ニ於テ命スル所ノ償  
金ハ若シ新貨トノ比較ヲ確定シタルモノナリ

以テ之ヲ明示スヘシ然レ從前ノ貨幣ヲハテ旧約屬  
ルモノハ旧規ニ因ルモノトス

第十五條 徵收期限迄ハ新貨ノ同様ニ諸般ノ仕拂方ニ用ユル  
ヲ得ルモノ左ノ如シ

第一項 聯邦一般ニ獨逸鑄造ノ一「テララル」ニ「テララル」ノ貨  
幣ハ一「テララル」ニ付三「マーク」ニ算當シテ新貨ノ代リニ  
用ユルヲ得ヘシ

第二項 聯邦一般ニ獨逸鑄造ノ銀貨三分一「テララル」ハ一「  
」ク共ニ六分一「テララル」ハ半「マーク」ニ算當シテ新銀貨  
ノ代リニ用ユルヲ得ヘシ

第三項 「テララル」ヲ流用スル國ニ於テハ二分一「テララル」ハ  
二十五「ペンニツフ」十五分一「テララル」ハ二十「ペンニツフ」  
三十分一「テララル」ハ十「ペンニツフ」二分一「グロッツセン」ハ

五「マンニツフ」五分一「グロッツセン」ハ二「マンニツフ」十分一  
及「十二分一」グロッツセン「ハ」ペンニツフニ算當シテ新  
造白銅貨及「銅貨」ノ代リニ用ユルヲ得ヘシ

第四項 「グロッツセン」十二進法ヲ舉行スル國ニ於テハ三「マン  
ニツフ」ヲ二「マンニツフ」二分一ニ算當シテ新造白銅貨及  
「銅貨」ノ代リニ用ユルヲ得ヘシ

第五項 「バウリア」ニ於テハ一「ヘル」ヲ二分一「マンニツフ」ニ  
算當シテ新銅貨ヲ用ユルヲ得ヘシ

第六項 「マクレンボルク」ニ於テハ「マーク」原貨ニ基キ鑄造シ  
タル五「ペンニツフ」ヲ五「マンニツフ」ニ「マンニツフ」ヲ二「マ  
ンニツフ」一「ペンニツフ」ヲ一「マンニツフ」ニ算當シテ新銅  
貨ノ代リニ用ユルヲ得ヘシ又總テ三ノ數四ノ數ノ貨幣  
ハ上ニ所掲ノ割合ヲ以テ徵收期日迄ハ帝國内ニ出

約司ニ於テモ諸般ノ拂方ニ於テ之ヲ受取ルヘシ  
第十六條 「クラオン」金貨其他諸國ノ金貨及ヒ内國貨幣ト比較  
確定<sup>レ</sup>タル外國金貨ト并ニ「テール」ヲ除キ他ノ貨幣基本  
ニ屬スル銀貨トハ徵收期日迄ハ此規則ニ從テ公私一切ノ  
仕拂ニ用ユルヲ得ヘシ

第十七條 新金貨發行前既ニ内國貨幣若クハ此貨幣ト比較確  
定シタル外國貨幣ヲ以テ仕拂ヲ為スヘキモノアルハ第  
九條ニ因リ其全額ク又ハ其内幾分ク新貨幣ヲ以テ辨スヘ  
キモノトス但シ其價值ノ割合ハ十四條第二項ニ從フヘシ  
第十八條 新債ト交換ヲ要セサル銀行紙幣ハ千八百七十六年  
一月一日迄ニ之ヲ徵收スヘシ而シテ此以後ハ百「マ」リヨ  
リサカラサル高ニシテ新債ト交換ヲ要スル銀行紙幣ノミ  
ヲ在留ス而シテ今日迄諸銀行ニ於テ發行シタル紙幣モ亦

右ノ成規ニ準拠スヘシ又聯邦内ノ諸國ニ於テ其地方限リ  
發行シタル紙幣ハ遅クモ千八百七十六年一月一日迄ニ之  
ヲ交換シ了ルヘシ故ニ遅クモ此日限六ヶ月前迄ニ豫メ徵  
収スヘシ而シテ帝國紙幣發行ノ事ハ向來制定スル所ノ帝  
國法律ニ從テ之ヲ施行スヘシ而シテ此法律ハ其發行及ヒ  
流用ニ付テノ諸規則ヲ具備シ差ニ聯邦内其地方限リ發行  
セル紙幣ヲ徵收交換シ了ハル國々ニ右紙幣ヲ流播セル  
ルノ方法ヲ明載スヘシ

右ノ條々遵守ノ証憑トシテ余等茲ニ記名シテ帝璽ヲ鈐スルモ  
ノ也

千八百七十三年七月九日在「ベツド」エムス

帝璽

「ウ」ルリ  
「ア」リンス、エン、ビ  
「大」  
「自」



千八百七十三年七月十五日柏林府ニ於テ公布スルモノ也

千八百七十六年十月七日迄獨逸國鑄造貨幣種類表

但シ「ナレヨナル、ゼイタンク」ヨリ抄出セル所ニレテ「ニコラス、フホレユ」氏書翰封入書ノ翻譯ナリ

金貨 十。億九千二百三十六万七千九百八十「マーク、ダブルハク

ラオン」(ニ「ナリ」)三億三千二百八十二万五千三百八十「マ

一ク、クラオン」(ナ「リ」)内一億七千百三十四万五千百六

十四「マーク」ハ私費ニ因テ鑄造シタルモノ也

銀貨 六千七百二十三万七千五百九十「マーク」(五「マ」)三千九

百。二万二千八百四十四「マーク」(二「マ」)一億四千三百

五十一万二千六百六十五「マーク」(一「マ」)三千九百六十四

万三千。五十八「マーク」五十「パン」ニツク(五「マ」)三千三百

三千三百二十二万九千三百十九「マーク」八十「パン」ニツク

大蔵省

白銅貨 <sup>マンニツ</sup>ニッ

二千二百三十二万。七百九十九「マーク」五十「マンニツ」  
<sup>(十「マンニツ」)</sup>一千二百二十三万五千七百二十四「マーク」三  
<sup>(十「マンニツ」)</sup>十「マンニツ」

銅貨 五百八十三万六千六百六十五「マーク」四十六「マンニツ」  
<sup>(十「マンニツ」)</sup>三百三十四万四千六百三十二「マーク」十七「マン

金貨鑄造合計

十四億二千五百十九万三千三百六十六「マーク」

銀貨鑄造合計

三億二千二百五十四万四千九百七十七「マーク」三十「マンニツ」

白銅貨鑄造合計

銅貨鑄造合計

三千三百五十五万六千五百二十三「マーク」八十「マンニツ」  
九百十七万六千二百九十七「マーク」六十三「マンニツ」

拜啓千八百七十六年十月二十三日附「ニコラス」氏ヨリ  
 ノ通牒ニ依テ九月十八日附貴下ノ回章ヲ薫誦スルヲ得テ即チ  
 其封入セシ疑問書ノ回答ヲ進呈ス伏テ思フニ余カ應答ノ如キ  
 ハ聊カ貨幣調査委員ヲ利スル所ナキヲ恐ル故ニ余ハ博士「クレ  
 イス」ノ周旋ニ依リ博士「アドルフ」ワク子ルノ尊諭ヲ得タルハ其  
 原文ト譯文トヲ以テ高覧ニ供ス而シテ其論題タルヤ素ト學術  
 上ノ事ナレハ我輩反訳ノ際極メテ注意セリト雖モ亦或ハ其訳  
 語ノ穩当ナラサルヲ恐ル是其原文ヲ附スル所以ナリ貴下幸ニ  
 彼是参照アラシムヲ願首再行

千八百七十六年十一月二十七日在伯林米國公使館

「ジェー」レ「バンク」ロ「ト」ダ「ビス」謹白

國務卿「ハミルトン」ヲ「シ」閣下

ホ 貨幣調査委員ノ疑問ニ博士「ワク子ル」ノ應答翻譯

第一疑問ノ答

金銀比較價格ハ驟チ他邦ト其變易ノ軌ヲ同フスト堂ニ就中英  
國ニ等シ

第二疑問ノ答

右價格變易ノ理由及ヒ其區域ハ他邦ト異ナラス

イ 第二疑問ノ答

金銀取引ノ熾シニ行ハルハ千八百七十一年造幣規則改正迄  
ハ獨リ「ハンボ」而已ニシテ此時以前ハ金銀ノ相場ハ伯林ニ於  
テ外國金貨ニ比較シニ定メタルモノ而已ニシテ外ニ相場アル  
ナシ而シテ其内國金貨「フリドリッヂ」「ハノバリアン」「フランヌウ  
#ク」及ヒ「ルイス」ト其外國金貨トノ相場ハ伯林府相場表ニ揭示  
セリ然レ此ハ金銀比較價格ヲ調査スニ付敢テ緊要トスル

ニ及ラス蓋シ此國ノ相場ハ英國ノ相場ニ因テ之ヲ左右スル而  
已ナラス偶々供給需要ノ間ニ其平衡ヲ失スレハ即チ其交易ス  
ルヲ見レハ也而シテ獨逸貨幣中公納價格ト称名スルモノアリ  
テ他ノ貨幣ノ憑準トナルヘキ價格ナリ即チ本位銀貨ノ價格ニ  
シテ諸出納司ニ於テ此價格ニ準拠シテ金貨ヲ受取ルモノ是ナ  
リ字魯士ノ如キハ「フリドリツ」金貨ノ公納價格ハ五「テール」  
三分ニトス而シテ千八百五十年六十年ノ間ニ金價ニ大墮落ア  
リシト虽モ能ク此價格ヲ保續セシメタルモノハ造幣ノ僅少ナ  
ルヲ以テ也

從來獨乙國ニ於テハ金塊或ハ外國金貨ノ賣買ハ幾ントナキカ  
如シ偶々純銀一磅（獨乙「コアランド」ニシテ）ノ割ヲ以テ「テール」ト  
銀塊トノ賣買相場アリト虽モ亦緊切トスルニ足ラス如何トナ  
レハ唯其鑄造ト未鑄造トノ別アルヲ以テ銀塊ノ價ハ常ニ僅ニ銀

八九

貨ヨリ低下ニシテ即チ銀塊純分一磅ニ付僅ニ三十「テール」ヲ欠ク歟アル而已  
「フランク」フォルト、ランゼ、メーシニ於テモ亦千八百七十一年迄  
ハ金銀取引ノ著甚ナルヲ見ス故ニ其相場ノ如キモ亦伯林ト異  
同ナシ

千八百五十七年一月二十四日維也納ニ開院セル獨乙聯邦貨幣  
會議ニ於テ獨乙一般高業ニ使用スル為ニ一磅ノ五十分一ノ純  
銀ノ割合ヲ以テ鑄造セル銀貨アリ之ヲ「クローン」ト云フ（同年五  
月四日）  
字國造幣規則（見ルヘシ）而シテ其鑄造高ノ僅少ナルト銀價浮沈常ナキ所  
以トニ因テ高業上ニ實用セサルケ故ニ該會議ニ於テ制定セル  
第十八條ノ明文ニ從ヒ供給ト需要トノ關係ニ因テ時々其價ヲ  
定ムト虽モ素ト此「クローン」貨幣ハ該會議ニ於テ適法通貨タラ  
サル「テール」議定セルヲ以テ若シ夫之ヲ以テ公納ニ充用セントナ  
ラハ斯クシテ定メタル價格ニ準拠スルモノトス（該會議第二  
一條附錄「イ」ヲ

見  
レル

蓋シ公約價格ヲ定メシ旨趣ハ銀貨ノ金貨ニ驅逐セラレシラン  
トヲ要スル所以ニシテ其價格ニ付テノ規則及ヒ金銀貨相場ニ  
付テノ規則ハ右二十一條ニ具載シ又之ヲ各地ノ法制ニ編入セ  
リ然レ該會議制定ノ條疑ハ大半無用ニ屬ス如何トナレハ貨幣  
本位ハ名目ハ金銀二者ナリト雖モ其實ニ就テ見ルハ流通ス  
ルモノハ唯銀貨ノミニシテ獨乙國內幾ント金貨ノ流用ヲ見カ  
ルカ故ニ右規則ニ掲クル所ノ比較價格ノ如キハ實地計算上到  
底行ハレサルモノナレハ也

獨リ「ハンボルク」ニ於テ曾テ數十年間金銀取引著シキモノアリ  
其取引ハ就中銀貨ヲ居多トス又金貨相場表ト違稱スハキモノ  
ハ千八百六十七年迄存在セリ即チ其比例ハ純金一「マー」クノ量  
目ヲ以テ「マー」ク「バン」コ（ハンボルク流通貨幣ノ名稱ニシテ純金  
一「マー」クニ等シキモノナリ）ニ付五百「グラム」ノ割合ニ憑準

ルニ

造ラ鑄ス銀貨ニテ算當セリ又千八百六十七年ヨリ七十二年迄ハ純  
金一磅ニ準ルニシテ相場ヲ立テリ又千八百七十三年以降ハ金塊  
ヲ以テ算セルモノアリ、純金一磅ニ付五百「グラム」ノ割合ニ憑準  
シテ鑄造セル貨幣ヲ以テ算セルモノアリ或ハ「マー」ク貨幣ヲ以  
テ算セルモノアリ要スルニ「ハンボルク」金相場ハ英國相場ニ後  
テ其低昂ヲ共ニシ且ツ此地ノ金貨ハ常ニ英國ニ得ル所ニシテ  
米國ヨリ之ヲ致スモノ太ク稀ナリ蓋シ該地ノ相場ニ於テハ常  
ニ英國ニ從フモノト雖モ令之ヲ英國相場ニ重ク一箇ノ技流相  
場ト思考スルハ幾分カ亦緊要トスヘキ所アルヘシ果シテ然  
ラハ敢テ無用視スルニ足ラス乃チ嘗テ此地ヨリ多量ノ「レ」ベリ  
ア「金」貨ヲ倫敦ニ輸送シ之カ為ニ一時金價相場ニ影響ヲ起セシ  
トアリ

今該地金銀相場ヲ點檢マンニハ「ソート」ゴール氏ノ纂輯アリ官

後  
官

登ノ相場表アリ「ハシホルク」貿易一覽アリ我輩今此高業一覽ニ  
 就テ金塊ノ價值ヲ銀貨「マーク」クバン「コ」ニテ算当セル所ノ相場ヲ  
 輯録スル左ノ如シ  
 但シ金塊量目一「マーク」ク（重量二百三十三グラム）ニ付テノ相場ナ  
 リ

年度	騰貴極度	下落極度	半週期平均相場
千八百五十年	四三、七	四一、七	四三二、十六分十三
千八百五十一年	四二、八、五	四一、九	四二五、八分七
千八百五十二年	四三、〇、五	四二、四、五	四二七、二分一
千八百五十三年	四二、九	四二、〇	四二五、八分七
千八百五十四年	四二、六、五	四一、九	四二二、四分一
千八百五十五年	四二、九	四二、三	四二五、十六分ノ三
千八百五十六年	四二、七、五	四二、三	四二四、八分七

四七

千八百五十七年	四二、四、五	四一、五	四二三、
千八百五十八年	四二、七、五	四一、五	四二三、六分七
千八百五十九年	四二、五、五	四一、八、五	四二二、八分三
千八百六十年	四二、五、五	四二、〇、五	二二三、十六分五
千八百六十一年	四三、〇	四二、四、〇	四二六、十六分十三
千八百六十二年	四二、五、五	四二、一、五	四二五
千八百六十三年	四二、二	四二、二、三	四二四、十六分五
千八百六十四年	四二、六、五	四二、三、	四二四、十六分三
千八百六十五年	四二、八	四二、二、五	四二五、四分一
千八百六十六年	四二、七	四二、一	四二三、八分五
千八百六十七年	四三、〇	四二、四	四二七、四分一

右表ハ金價ノ變遷ヲ示スモ「ニ」シテ今若シ金銀比較價格一ト  
 十五半ノ割合ヲ以テスレハ（獨乙佛國ノ如キ）金量一「マーク」クハ

錢  
 百

百三十「<sup>一</sup>」ク、バン「<sup>コ</sup>」ハ多「<sup>一</sup>」当ル也

年 度	騰貴極度	下落極度	平 均
千八百六十八年	九二九	九一六	九二〇、四分三
千八百六十九年	九二四	九二〇	九二一、十六分三
千八百七十年	九二五	九一〇	九一六、十六分一
千八百七十一年	九二五	九二〇	九二〇、二分一
千八百七十二年	九三六	九二〇	九二三、十六分五
又千八百七十二年以后純金塊一磅ヲ「 <sup>マ</sup> 」ク銀價ニ「 <sup>テ</sup> 」算当スル「 <sup>レ</sup> 」左ノ如シ			
年 度	騰貴極度	下落極度	平 均
千八百七十三年	一三八五	一三七七	一三八一、二四
千八百七十四年	一三九〇	一三七〇	一三七九、七四
千八百七十五年	一三九五	一三八五	一三八七、八六

千八百七十三年以後ハ「<sup>ハ</sup>」ンゴル「<sup>ク</sup>」ニ於テ「<sup>マ</sup>」ク貨幣ヲ用「<sup>レ</sup>」且ツ金貨ヲ以テ本位貨幣ニナセルカ故ニ「<sup>マ</sup>」ク金貨ト銀塊トノ相場ヲ見ハ金銀比較價格如何ヲ知ルヘシ乃チ純銀一磅ニ付「<sup>マ</sup>」ク金貨ノ相場左ノ如シ

年 度	騰貴極度	下落極度	「 <sup>マ</sup> 」ク金貨平均	金銀價比例
千八百七十三年	八七、七〇	八五、〇〇	八六、六一	一ト一六、一
千八百七十四年	八七、〇〇	八四、七〇	八五、九七	一ト一六、二
千八百七十五年	八五、五〇	八一、九〇	八三、八九	一ト一六、六
純金一磅ニ付九百十九「 <sup>マ</sup> 」ク、バン「 <sup>コ</sup> 」六ノ相場 <small>(此相場ハ千八百七十一年迄存セ)</small>	純銀一磅ニ付九十「 <sup>マ</sup> 」ク	金貨ノ相場トハ二ツ		

ナカラ一ト十五半ノ比例ニ当ル也  
 彼ノ寧佛戰爭以還及「<sup>レ</sup>」獨「<sup>シ</sup>」造幣規則改正以來柏林府モ亦金銀取引上「<sup>ハ</sup>」大市場トナリ即チ五百「<sup>グ</sup>」ラムノ金塊ト「<sup>マ</sup>」ク貨幣及





差アリ乃千八百七十四年五月  
 十右六年間、ス伯林ツ相  
 及ニ千八百七十五年  
 表トヲ参照スル  
 (七)

月次	千八百七十四年		千八百七十五年		千八百七十四年		千八百七十五年	
	「ナガレオン」金貨	「インペリアル」金貨	「ナガレオン」金貨	「インペリアル」金貨	「ナガレオン」金貨	「インペリアル」金貨	「ナガレオン」金貨	「インペリアル」金貨
一月	一三八六	一四〇七	一三八六	一四〇〇	九五二五	九四七五	一九一五	一八二五
二月	一三九二	一四〇五	一三八三	一四〇〇	九五〇〇	九四七五	一九一五	一八二五
三月	一三九八	一四〇九	一三八三	一四〇四	九五六二	九四七五	一九一五	一八二五
四月	一三九二	一四一五	一三八七五	一四〇六	九五二五	九四七五	一九一五	一八二五
五月	一三九二	一四〇六	一三八七五	一四〇〇	九五六二	九四七五	一九一五	一八二五
六月	一四〇一	一四〇六	一三八七五	一四〇〇	九五六二	九四七五	一九一五	一八二五
七月	一四〇一	一四〇六	一三八七五	一四〇〇	九五六二	九四七五	一九一五	一八二五
八月	一四〇七	一四〇七	一三九一	一四〇〇	九五七五	九四七五	一九一五	一八二五
九月	一四〇七	一四〇七	一三九一	一四〇〇	九五七五	九四七五	一九一五	一八二五
十月	一四〇四	一四〇七	一三九二五	一四〇〇	九五七五	九四七五	一九一五	一八二五
十一月	一四〇七	一四〇七	一三九二五	一四〇〇	九五七五	九四七五	一九一五	一八二五
十二月	一三九五	一三九五	一三九二	一四〇〇	九五七五	九四七五	一九一五	一八二五

此表ハ各貨幣ノ量目五百グラムニ付  
 「インペリアル」金貨ヲ以テ算當セ  
 ルモノナリ



純銀一磅ヲ以テ三十テールニシテ鑄造セルモナク但シ該會議以前鑄造ノ比例ハ純銀一「コローン」マシク(量目)ニ付十四「テール」ニシテ之ヲ一磅ニ付三十「テール」ノ鑄造ニ比スレハ二歩五厘ノ減少アリ

造幣規則改正マテ右三十「テール」ノ割合ノ貨幣其他「ブル」テールハ其造幣會議ヲナセル地方一般ニ從來適法通貨トナセル所ニシテ其他大小ノ銀貨(六分一「テール」ラ「ル」四分一「レ」ニシ「ユ」フローリン(南獨)及ヒ四分一「塊國」フローリンハ其純銀量目ヲ三十「テール」ノ割合ニ準ルテ鑄造シ且各之ヲ鑄造セル國ニ於テ適法通貨トナセリ而シテ幾許ノ負債ヲ償却スルモ皆此等ノ貨幣ヲ以テ辨スルカ故ニ亦之ヲ無限適法通貨ト云フ而シテ補助貨幣ノ如キハ六分一「テール」ラ「ル」高ヨリ大ナルモ皆般ノ仕拂方ニ於テ何人タリモ之ヲ拒ムノ權利アルモノトス又

維也納造幣會議一於テ補助銀貨最低ノ價值ヲ定メ若シ所有主ノ請求アルハ之ヲ大銀貨ト交換スヘキヲ各地方ノ義務トナセリ(該會議々定十四條十)又金貨「ク」ラ「オン」ヲ以テ銀貨トノ比較價格ヲ確定セサルモノトス(同第四條)是故ニ今實際ヲ云ハハ造幣規則改正迄ハ獨リ銀貨ヲ以テ貨幣本位トシ千八百七十五年以後ト強ク尚ホ銀貨ノミ本位貨幣ナルハ金貨ノ流通大ニ減少シタル所以也

第二 改正以後ニ係ル分

千八百七十一年十二月布告造幣規則(帝國官令新註四)及ヒ千八百七十三年七月布告造幣規則(同上二百三十三)ニ從ハハ現在流用銀貨ニ徴収シタル後ハ獨リ金貨ヲ以テ獨逸一般ノ貨幣本位トス而シテ現在流用金貨中主領ナルモノハ二十「マーク」(五)ハ「ク」(六)「ク」(七)「ク」(八)「ク」(九)「ク」(十)「ク」(十一)「ク」(十二)「ク」(十三)「ク」(十四)「ク」(十五)「ク」(十六)「ク」(十七)「ク」(十八)「ク」(十九)「ク」(二十)「ク」(二十一)「ク」(二十二)「ク」(二十三)「ク」(二十四)「ク」(二十五)「ク」(二十六)「ク」(二十七)「ク」(二十八)「ク」(二十九)「ク」(三十)「ク」(三十一)「ク」(三十二)「ク」(三十三)「ク」(三十四)「ク」(三十五)「ク」(三十六)「ク」(三十七)「ク」(三十八)「ク」(三十九)「ク」(四十)「ク」(四十一)「ク」(四十二)「ク」(四十三)「ク」(四十四)「ク」(四十五)「ク」(四十六)「ク」(四十七)「ク」(四十八)「ク」(四十九)「ク」(五十)「ク」(五十一)「ク」(五十二)「ク」(五十三)「ク」(五十四)「ク」(五十五)「ク」(五十六)「ク」(五十七)「ク」(五十八)「ク」(五十九)「ク」(六十)「ク」(六十一)「ク」(六十二)「ク」(六十三)「ク」(六十四)「ク」(六十五)「ク」(六十六)「ク」(六十七)「ク」(六十八)「ク」(六十九)「ク」(七十)「ク」(七十一)「ク」(七十二)「ク」(七十三)「ク」(七十四)「ク」(七十五)「ク」(七十六)「ク」(七十七)「ク」(七十八)「ク」(七十九)「ク」(八十)「ク」(八十一)「ク」(八十二)「ク」(八十三)「ク」(八十四)「ク」(八十五)「ク」(八十六)「ク」(八十七)「ク」(八十八)「ク」(八十九)「ク」(九十)「ク」(九十一)「ク」(九十二)「ク」(九十三)「ク」(九十四)「ク」(九十五)「ク」(九十六)「ク」(九十七)「ク」(九十八)「ク」(九十九)「ク」(百)「ク」(百一)「ク」(百二)「ク」(百三)「ク」(百四)「ク」(百五)「ク」(百六)「ク」(百七)「ク」(百八)「ク」(百九)「ク」(百十)「ク」(百十一)「ク」(百十二)「ク」(百十三)「ク」(百十四)「ク」(百十五)「ク」(百十六)「ク」(百十七)「ク」(百十八)「ク」(百十九)「ク」(百二十)「ク」(百二十一)「ク」(百二十二)「ク」(百二十三)「ク」(百二十四)「ク」(百二十五)「ク」(百二十六)「ク」(百二十七)「ク」(百二十八)「ク」(百二十九)「ク」(百三十)「ク」(百三十一)「ク」(百三十二)「ク」(百三十三)「ク」(百三十四)「ク」(百三十五)「ク」(百三十六)「ク」(百三十七)「ク」(百三十八)「ク」(百三十九)「ク」(百四十)「ク」(百四十一)「ク」(百四十二)「ク」(百四十三)「ク」(百四十四)「ク」(百四十五)「ク」(百四十六)「ク」(百四十七)「ク」(百四十八)「ク」(百四十九)「ク」(百五十)「ク」(百五十一)「ク」(百五十二)「ク」(百五十三)「ク」(百五十四)「ク」(百五十五)「ク」(百五十六)「ク」(百五十七)「ク」(百五十八)「ク」(百五十九)「ク」(百六十)「ク」(百六十一)「ク」(百六十二)「ク」(百六十三)「ク」(百六十四)「ク」(百六十五)「ク」(百六十六)「ク」(百六十七)「ク」(百六十八)「ク」(百六十九)「ク」(百七十)「ク」(百七十一)「ク」(百七十二)「ク」(百七十三)「ク」(百七十四)「ク」(百七十五)「ク」(百七十六)「ク」(百七十七)「ク」(百七十八)「ク」(百七十九)「ク」(百八十)「ク」(百八十一)「ク」(百八十二)「ク」(百八十三)「ク」(百八十四)「ク」(百八十五)「ク」(百八十六)「ク」(百八十七)「ク」(百八十八)「ク」(百八十九)「ク」(百九十)「ク」(百九十一)「ク」(百九十二)「ク」(百九十三)「ク」(百九十四)「ク」(百九十五)「ク」(百九十六)「ク」(百九十七)「ク」(百九十八)「ク」(百九十九)「ク」(百)「ク」

一「クハ純五」旁五百グラムヲ以テ六十九箇四分三ヲ鑄造シ又十  
 マークハ百三十九箇二分一ヲ鑄造ス故ニ一磅ニ付千三百九十  
 五グラムニ當ル也又混合物ハ全量ノ一割即チ純金量目ノ九分  
 一也又五「マーク」金貨ハ造幣規則ニ從ハテ鑄造ス可キモノト定  
 ムト雖モ未タ鑄造セズ而シテ幾許ノ拂方ニテモ將來獨逸帝國  
 一般ニ用ユルヲ得ル者ハ獨リ右等ノ金貨ニ限ルモノトス又從  
 前ノ銀貨ヲ以テ公私ノ仕拂ヲ為ス可キ者及ヒ一切ノ回債ヲ辦  
 スルハ銀貨六「マーク」三分ニテ金貨二十「マーク」ニ算當  
 スヘキモノトス此割合ハ一ト十五半ニ當ル且チ千八百七十一年  
 造幣規則ニ制定スル割合モ亦同シト十五半  
 二「当ル」是佛國ニ於テ一「キログラム」ニ付銀貨二百「フ  
 ランク」ト一「キログラム」ニ付金貨百五十五「フランク」  
此内十分九ニ付銀貨トストヲ鑄造スル割合ト相同シ  
一箇クニ付二十「フ」トヲ鑄造スル割合ト相同シ  
 千八百七十一年ニ降獨逸國ニ於テハ金價ハ騰貴ニ隨テ銀價

五ニ

ノ墮落ヲ生レ終ニ金貨二十「マーク」ノ相場ハ七「マーク」三分二  
 乃至八「マーク」ニ及ヘリ故ニ亦一「マーク」ヲ以テ金貨三「マ  
 ーク」ニ適當セサルハ素ヨリニシテ二「マーク」六、二「マ  
 ーク」四ニ及ヘリ  
 斯ク旧銀貨「マーク」ノ價值墮落セリト雖モ尚モ一ニ付三「マ  
 ーク」ノ比例ヲ以テ幾許ノ仕拂方ニ於テモ之ヲ用ユルヲ得ルモノ  
 トス  
 一「第二疑問」ニ應答スルニ當リ我輩嘗テ確知スル如ク諸計筭ノ  
 統計甚タ杜撰ナリ今其不分明ノ科目ヲ列記セハ左ノ如シ  
 第一 獨逸及ヒ墾國ノ造幣局ニ於テ何種類ノ貨幣ヲ幾許鑄造  
 マルヤ明カラス  
 第二 現今施行ノ造幣規則制定以前及ヒ以後諸國ニ於テ幾許  
 ヲ徴収スルヤ審カナラズ

七 歳首

第三 獨乙貨幣ヲ外國へ輸出セラルル高是ニ外國獨乙及ヒ埋國ニ  
 於テ鑄解セル高審カナラス  
 第四 外國貨幣ノ獨乙ニ流融セルモノ幾許ク審カナラス  
 就中右第三第四ノ科目ハ其計筭雜駁區々ニシテ加之年紀ニ從  
 テ異同アリ今千八百七十一年及ヒ七十三年ノ兩期前ニ係ル所  
 ノ貨幣高ノ計筭ヲ造幣規則改正ノ際ニ統計セルモノ種々アリ  
 乃チ其最モ信依セラルヘキ計筭ハ「ソートビル」氏ノ算ナリト  
 強モ之ク精算ニ至テハ貨幣ノ改正全ク竣功スルニ非サレハ得  
 テ審カニスヘカラス又帝國大藏卿及ヒ大臣「カハ」ホーセンノ算  
 ニ拠レハ曰「テ」ラ「ル」貨幣高ノ計筭甚々僅少ニシテ「ソートビル」  
 「ル」氏ノ算ト大ニ齟齬スル所アリ  
 帝國公會ノ中報造幣統計書及ヒ貨幣消失高計筭書ニ拠リ我輩  
 ノ算スル所左ノ如シ附言千八百六十七年ノ計筭ハ「ソートビル」

九三

ル氏纂輯ノ千八百七十四年ノ獨乙高法雜輯第四十四号ヲ見ル  
 へシ

五九四、四八〇、〇〇〇	「テ」ラ「ル」貨幣存在高 <small>(千八百六十七年迄ニ係ル)</small>
二三、四五〇、〇〇〇	補助銀貨存在高 <small>同</small>
六一七、九一〇、〇〇〇	合計
九五、七一〇、〇〇〇	政府徴収高 <small>同</small>
五二二、二〇〇、〇〇〇	残額
* 一五四、〇〇〇、〇〇〇	同期限迄輸出鑄解及ヒ消失高ヲ元高ノ三分下際算シテ
三六八、〇〇〇、〇〇〇	残額
一五、〇〇〇、〇〇〇	同獨乙金貨流通高 <small>同</small>
四三、五〇〇、〇〇〇	合計
千八百七十六年秋ニ概算セルモノ左ノ如シ	
七〇、〇〇〇、〇〇〇	「ソートビル」氏ノ銀貨流通殘額

大藏省

三、四〇〇、〇〇〇、〇〇〇	本位銀貨鑄造高同	（此項より尚大教三）千八百七十六
三、四〇〇、〇〇〇、〇〇〇	白銅貨鑄造高同	（此項より尚大教三）千八百七十六
一〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	銅貨鑄造高同	（此項より尚大教三）千八百七十六
一、四三〇、〇〇〇、〇〇〇	新金貨鑄造高同	（此項より尚大教三）千八百七十六
一〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	外國貨幣（重金）流通高及此貨幣	（此項より尚大教三）千八百七十六
二、六一五、〇〇〇、〇〇〇	地金トヲ以テ銀行ニ積蓄高大概算同	（此項より尚大教三）千八百七十六
四〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	合計	（此項より尚大教三）千八百七十六
二、二一五、〇〇〇、〇〇〇	新金貨ヲ鑄解セル者及輸出高（就中輸出高十四年ニ其）大槩算同	（此項より尚大教三）千八百七十六
	通計總額	（此項より尚大教三）千八百七十六

\* 計算誤謬アルモノ、如シト雖モ原稿ニ從テ之ヲ刊ス  
アル、ハ、誌

五〇

右總額中「マーク」全貨一億二千萬ハ軍備ニ濫藏セルヲ以テ現在  
 流用高大約二億一千万「マーク」ナリ之ヲ全國人口ニ分算セハ一  
 人ニ付凡ソ五十「マーク」ノ比例ナリ又此二億一千万ノ内新銀貨  
 白銅貨及ヒ銅貨ハ補助貨幣ニシテ改正造幣規則ニ從ヘハ人口  
 一人毎ノ鑄造高ヲ十「マーク」銀貨一「マーク」半白銅貨及ヒ一「マー  
 ク」銅貨ニ比例スルヲ以テ五億二千五百万「マーク」ノ増加アリ而  
 シテ新銀貨ハ二十「マーク」迄ノ適法通貨トシ白銅貨及ヒ銅貨ハ  
 一「マーク」迄トス又銀貨ナレハ二百「マーク」以上白銅貨ナレハ五  
 十「マーク」以上ヲ何時ニテモ獨逸國內ニ於テハ金貨ト交換ヲ為  
 スヘキモノトス

（二）第一疑問ノ應答ハ到底獨逸國ニ望ム可ラズ況ンヤ金銀工作  
 ノ重ヲ容ニ管理スル國ニ於テ向ホ且ツ其精算ヲ得ル能ハル  
 下アルニ於テ、ヤ故ニ仮令ヒコレヲ計算スルニ擅断ヲ免レヤ

ル也

ホ第二疑問ニ付テハ千八百七十四年四月三十日布告ノ大蔵証券規則及ヒ千八百七十五年三月十四日布告ノ銀行條例ヲ見ルヘシ乃チ其成規ニ拠テ発行セル大蔵証券ナルモノアリ銀行紙幣ナルモノアリ二者違法通貨ニアラスレテ唯何時ニテモ市國貨幣ト交換スルヲ得テ且ツ之ト其價ヲ平均セシム

右大蔵証券ハ嘗テ獨乙諸國ヨリ発行セル公債証券ト兌換セルモノニシテ其種類五「マーク」二十「マーク」五十「マーク」一億二千「マーク」一「ク」発行スヘキ成規ナレバ既ニ増發シ一億七千四百萬ニ及ヘリ故ニ其剩差ハ千八百九十年迄ニ徵收交換スヘキモノトス

又銀行紙幣ハ曩者「プロシヤン」銀行ニ代リテ設立セル「イマペル」帝國銀行ト紙幣發行ノ許可ヲ得タル銀行トニ於テ之ヲ発行セルモノ而已レ

之也

テ此等ノ銀行ハ素ト特許ニ有スルモノナレバ兼テ又一般銀行條例ヲ遵守スベキモノトス且ツ其發行總額ヲ三億八千五百萬「マーク」(四ニ億五千萬ハ帝國銀行ノ發行高トシ)トシ又違法通貨ヲ以テ之カ抵當ヲ為スラ須ヒサルモノトシ加之發行スルニ稅銀ヲ課ス

今若シ右銀行中紙幣發行ノ權ヲ自カラ放棄スルモノアラハ既ニ抵當ナクシテ發行セルカノ紙幣ハ帝國銀行ニ於テ之ヲ負擔スルモノトス而シテ今日ニ至ルマテ之ヲ負擔セルト屢ナリ切メ抵當ナクシテ紙幣ヲ發行セル中ハ其發行高ノ五分ヲ以テ納稅スヘキモノトス而シテ凡テ銀行紙幣ヲ帝國一般自在ニ流通セシムル為ニ帝國中主領ナル都會ニ於テ(就ハ「伯」)何時ニテモ貨幣上交換スヘキモノトス又銀行相互ノ取引ハ細大トナク皆之ヲ以テ士「弗」カスヘキモノトス

大蔵省



令銀行券現在流通高ヲ掲

千八百七十五年十一月三十日迄ノ分

六千四百六十三万七千「マーク」以下ノ紙幣

三千〇二十二万二千 五十「マーク」以上百「マーク」以下

十億二千万 百「マーク」以上

合計十一億三千二百七十七万二千「マーク」

内訳

七億三千五百四十七万一千 帝國銀行発行

三億九千八百三十〇一千 其他諸銀行発行

全上年紀ヨリ千八百七十六年十一月三十日迄ノ分

五十八万一千「マーク」 五十「マーク」以下ノ紙幣

八十万 五十「マーク」以下百「マーク」以下

九億六千九百四十万 百「マーク」以上

合計 九億七千九百三十一万「マーク」

内訳

七億四千〇十二万 帝國銀行発行

二億三千〇七十八万九千 其他諸銀行発行

右発行紙幣種類中百「マーク」クモノ夥多ナルハ改正條例ニ於テ

百「マーク」以下ノ発行ヲ禁停シタル所以ナリ故ニ百「マーク」以下

ノモノハ徴収ス可キモノニシテ現今幾ント此等ヲ徴収シ了セ

リ而シテ諸銀行発行高ノ準備ハ正金ニテ常ニ槩子三分一乃至

二分一ノ間ニ在リ又帝國銀行ニテハ二分一乃至三分二ノ間ニ

在リ

一、第三疑問ノ答

獨ニ帝國礦山産出ノ統計ハ数年間整査セルモノアルヲ以テ疑

問ニ應答スルヲ得ルト虽モ當代(代ナリ)年ノ行ハ詳カナラス然

モ孛國其他二三ノ國ニ於テ或ハ時音ニ溯リ之ヲ精算ヲ得ヘ  
 レ今獨逸帝國四季統計(千八百七十)第一号ニ編ニ就テ近來ノ統計  
 ヲ得タレ之ヲ左ニ掲ク但シ千八百六十四年銀產出高ハ十四  
 万八千六百七十九磅(千三百三十万)ニシテ六十二年ハ十三万六  
 千五百十三磅(千二百十萬)ナリ

年 度	銀 產 出 高	金 產 出 高
千八百六十五年	一四六、六九二	七〇、九
千八百六十六年	一五七、〇八五	三一〇、一
千八百六十七年	一七六、六五一	一六九、五
千八百六十八年	一八七、一一八	二三〇、二
千八百六十九年	一八四、五三六	一五八、〇
千八百七十年	一八五、八四七	一三六、三
千八百七十一年	一九六、二〇一	一六四、五

之七

千八百七十二年	二五四、〇一三	五六五、〇
千八百七十三年	三五四、四二二	六二九、九
千八百七十四年	三一、一七〇、五	七三〇、二

但シ一磅ハ五百グラムナリ

近來漸ク銀量產出ノ増加セル米國其他諸國ニ於テ銀山開掘ノ  
 舉アルニ因ル也乃チ千八百七十四年ノ產出高内九万二千〇六  
 十四磅ハ現ニ他國ニ得タル所ニシテ金量產出高ノ内幾許ノ亦  
 此ノ如キモノアリ是此國ノ產出高ヲ増加セルメタル所以也  
 第三疑問ニ答テ曰ク万國貿易上一般ニ影響スル許多ノ原因ア  
 ルヲ以テ也就中輓近獨逸及ヒスカンデ子ビヤニ於テ銀貨ヲ棄  
 廢ニ加之魯埃等ノ國ニ於テ紙幣ヲ發行シ以テ銀貨ヲ驅逐セル  
 事ナリ

第四疑問ハ第二疑問ニ於ケル如ク其應答ヲ簡單ニ尽シ難シ

先ツ其大略述フレハ嚮ニ獨逸國ニ於テ多量ノ銀ヲ賣出セル  
後（高カホト賣出マサルモ）及ヒ羅典同盟國ニ於テ金貨本位法ヲ  
更改セシ後ハ必然銀貨ノ墮落ヲ一時抑止スヘシ如何ントナレ  
ハ先ツ其開鑄ノ率ヲ中止シ且ツ工作工ノ需ト補助貨幣鑄造ノ  
需トニ因テ常ニ其給需ノ間推衡宜キヲ得レハナリ就中紙幣流  
用ノ國ニ於テ償却ノ期到ラハ大ニ功績奏スルナルヘシ  
第五疑問モ亦簡單ニ應答シ難シ今其大要ヲ云ヘハ輒近銀價墮  
落セルヲ以テ之ヲ賣出スルニ大損アキラ得サルカ故ニ（ホト賣  
出セサ  
ル）乃至一億マルク（アルハ千）改正造幣規則ヲ實施スルヲ稍々難シ  
トセリ況ンヤ既ニ其墮落ノ為ニ賣出ノ率ヲ廢停セルニ於テラ  
ヤ

第六疑問ニ付先ツ現在流用貨幣ヲ多ククルヲ要ス

第一 銀貨ノ鑄造ハ補助貨幣タルノ理ニ從テ之ニ制限ヲ設ケ

リ而シテ之ヲ鑄造スルニ一磅ニ付百マルクナルヲ以テ金銀  
比較價格一ト十五半ニシテ即チ純銀九十マルクナルカ故ニ  
鑄造手数料ハ九分一ニ當ル也且ワ之ヲ鑄造スルニ人口一人  
ニ付十マルクヨリ超過セサルモノトス

第二 金貨ニ十マルクノ鑄造ハ制限ナクシテ純金一磅ニ付千  
三百九十五マルクヲ鑄造シ且ツ其手数料ヲ七マルク迄トナ  
シタルハ自カラ其鑄造ノ過多ヲ防止セントスルニ在リ然モ  
帝國銀行ヲシテ純金一磅ニ付千三百九十三マルクノ割合ヲ  
以テ紙幣ヲ發出セシメ且ツ何時ニラモ之ヲ金貨ト交換スヘ  
キモノト定ムルカ故ニ（條八百三十五年銀行）其手数料ハ實  
純金一磅ニ付三マルクニ當ル也

第三 獨逸國ニ造幣局アルハ皆諸國州ノ創立ニ係ルモノニシ  
テ帝國一般ノ創立ニ係ルモノナレ故ニ造幣ノ事ハ此等ノ局

ニ於テ帝國一般ノ為ニ定貨ヲ以テ鑄造ヲ負擔スルモノ也  
 第四 外國貨幣ノ輸入ヲ許スト雖モ之ヲ以テ造法通貨トマス  
 但シ墾國<sup>テ</sup>ラ<sup>ル</sup>貨幣ハ此限ニ非スレニ獨乙<sup>テ</sup>ラ<sup>ル</sup>ト全  
 様造法通貨トス

第五 我輩カ知ル所ヲ以テセハ外國ノ為ニ造幣ヲ負擔セス

第六 我輩ヲ以テ之ヲ觀レハ補助貨幣價造ノ事ニ付未ク何等  
 ノ紛紜ヲ聞知セスト雖モ現時銀價ノ墮落ト工ニ搦クル鑄造  
 手数料トヲ以テ其實價ヲ算スルハ名額ニ降ルニ割乃至ニ  
 割五分ナルカ故ニ廣造ノ患甚ク大ナリ

第七 貨幣及ヒ地金輸出入ハ精算ナレ偶々貿易統計書アルモ  
 皆無用ニ屬ス獨リ稍々信依セラル可キモノハ「ハンボルク」ノ  
 輸入統計書（概近之ニ輸出）ナリト雖モ之ヲ以テ全國ヲ算スル  
 ニ由ナレ唯該國ノミニ係ル輸出入ヲ「マーク」貨幣ニテ算スレ

ハ左ノ如シ

年度	輸 入		輸 出	
	千八百七十四年	千八百七十五年	千八百七十四年	千八百七十五年
金貨幣	六三、四〇〇	三〇、一九八、二〇〇	一、五八一、〇〇〇	四、九〇六、八〇〇
金地金	一、五九〇、四〇〇	一、三二六、二七一〇	四四九、一〇〇	五三〇、九〇〇
銀貨幣	二、五六八、〇六〇	一、一六六、六三〇	一八、九〇五、五二〇	一三、九六二、六〇〇
銀地金	一、四七八、四九〇	一、一七二、九四六	三、四一四、四六〇	一、二、四〇六、八〇〇
未定正金	九六二、三四〇	七八九、五七〇	一一七、三〇九	二六六、六〇〇
合 計	二、五三七、二〇〇	一、八四、五一〇、六〇〇	五、五、一九六、三八〇	三、六、〇、七三、七〇〇

但シ輸入ハ「ハンボルク」海邊<sup>ニ</sup>「ウヲア、オルト」地方ニ  
 止マル而已又輸出ハ「ウヲア、オルト」地方ノ分ヲ除ク  
 又正金輸入（海邊及ヒ「ウヲア、オルト」平均高江ノ如シ）  
 一千六百二十五万「マーク」目一千八百四十六年至五十年

三千三百四十四万「マーク」 自千八百五十一年至五十五年  
 二千九百三十六万「マーク」 自千八百五十六年至六十年  
 一千七百四十六万「マーク」 自千八百六十一年至六十五年  
 二千九百六十七万「マーク」 自千八百六十六年至七十年  
 一億六千九百五十五万「マーク」 自千八百七十一年至七十五年  
 附千八百七十五年「ハンボルク」貿易一覽(「ダビエラトル」)  
 二百六十七葉ヲ参照スベシ

第八疑問ノ答

金銀山開掘ノ事ハ皆獨逸諸國各自ノ法制ニ從テ管轄ス且ツ其  
 産出ノ如キハ僅シナルカ故ニ其詳細ニ涉ルヲ要セサルモ可也  
 而シテ鑛山税ノ如キハ甚タ些少ニシテ且ツ特別ニ收税セサル  
 ヲ一般ノ成規トス

第九疑問ノ答

六。

上ニ述フル所ヲ参照スベシ尚ホ造幣及ヒ銀行ニ係ル法則ノ詳  
 細ヲ要セン千八百七十五年刊行ノ「ト」ト「ト」此「エルランゲン」  
 「バルム」メ「ールス」及ヒ「モレル」諸子ノ注釋書ヲ参考スベシ  
 千八百七十六年十一月十四日

在伯林

「ドク」メル、エト、ワグ子「謹誌」

嚮ニ專書十月二十七日附ヲ以テ銀價墮落ノ疑問ヲ辱フス伏テ  
思フニ其墮落ノ異常ナルヲ致セルノ原因ハ英國報告書銀價墮  
落淵源（オランダ、プロシヤ、ベルギー）ニ載セラテ詳カナルヲ以テ區々ノ言  
却テ尊意ヲ煩ス而已而シテ其報告書ヲ世ニ公ニセル後獨逸  
公會ニ第五見込書ナルモノヲ現出セリ今我輩之ヲ閱スルニ獨  
乙ヨリ賣出銀量ノ寡ナルニ驚駭セリ即チ其高千八百七十六  
年十一月三十日迄一磅純銀九百「マ」クノ割ヲ以テ二百十七万  
六千九百三十九磅即チ代價一億九千五百九十二万四千五百三  
十六「マ」クニシテ之ク鑄造名額ハ二億〇四百八十五万六千百  
六十「マ」クナリ是即チ造幣規則改正以來獨逸各地方ノ間ニ散  
布セル高ニシテ之ヲ以テ銀價墮落ノ原因ナリトス  
然モ我輩今佛國其他諸國相共ニ造幣ノ為ニ締盟セル國ニ於テ

一億九千六百万「マ」クヨリ多量ノ銀ヲ買収セル事ヲ思考モハ  
其原因ト為セルモノハ真ノ原因ニ非サルモノ、如シ果シテ然  
リトセハ其報告ニ論スル如ク其墮落ノ大原ハ英國ヨリ印度ニ  
寄送スル物件ノ變易シタルニ歸マサル可ラズ乃チ曠昔ハ首ト  
シテ銀ニ在リシカ現今ニ至テ政府証券（本邦政府ヨリ印度地方  
ノ証券）ニ變マリ之ヲ細言セハ千八百六十八年ヨリ七十二年迄  
ニ寄送スル銀地金ノ証券ニ超過セル高二百六十万磅ナリレカ  
千八百七十二年ヨリ七十六年迄ハ之ニ反シテ証券ノ超過高ハ  
百五十万磅ナリ故ニ兩時限間ノ違差ヲ合スレハ一千百万磅  
ニシテ即チ年二億六千六百万「マ」クニ當ル也然ラハ則チ獨逸改  
府ヨリ年五千乃至六千万「マ」クヲ賣出セルモノト其影響スル  
所何レカ大ナルハ知ルヘキ也故ニ今日ニシテ後ヲ獨逸國ヨリ  
向後賣出スルノ舉ヲ杞憂スルハ其當ヲ得サルカ如シ

今獨ニ旧貨幣ノ輸出鑄解等ニテ摩耗セル高ヲ知ラント要セハ  
 南獨乙債幣ヲ悉ク徵収交換シタル後ニ非カレハ得テ審カニス  
 ヘカラスト虫モ姑ク一、二、及ヒ半、フロリー、ニ準拠シテ先ツ其  
 発行總額ヲ算スレハ一億一千九百四十六万九千、フロリー、シテ  
 リ此内徵収交換高九千一百〇一万四千ヲ扣除セハ残額二千八  
 百四十五万五千ニシテ是即チ輸出鑄解等ニテ摩耗セル高ノ概  
 算ナリ之ヲ其発行高ニ比例セハ二割四分即チ凡ソ四分一ニ當  
 ル也今又之ヲ北獨乙「テール」債幣ノ割合ヲ取テ算スレハ左ノ  
 如シ

百六十二万八千「テール」	発行總額
四十〇万七千同	四分一摩耗高
一百二十二万一千同	残額
五十五万三千同	徵収高

六二

此内十四万四千八百七十七年迄ノ徵収又三十八万九千  
 八千八百七十七年ヨリ七十六年十一月三十日迄ノ分ナリ  
 六十八万八千「テール」

右差違ハ目下旧貨幣流通高ノ概算ナリ而シテ新銀貨幣鑄造豫  
 定總額四億三千万ノ内既ニ鑄造セルモノ三億一千七百万ナル  
 カ故ニ尚ホ鑄造スヘキ高一億一千三百万アリ今之ヲ鑄造セン  
 ニハ旧貨幣「マーク」一億〇二百万ノ銀量ヲ要スヘシ如何トナレ  
 ハ旧貨幣鑄造ノ割合ハ一磅ニ付九百「マーク」ニシテ新債ノ割合一  
 磅ニ付百十「マーク」ナレハナリ然レ本年十一月三十日迄ノ徵収  
 高左ノ如ク大数ナルヲ以テ大ニ剩餘ヲ存ス即チ左ノ如シ

五億九千九百万「マーク」  
 徵収高  
 四億九千万同

此内二億五百万ハ地金トナシテ賣出セルモノ又二億八千

五百万ハ新貨三億一千七百万ヲ鑄造セル為ニ二月タルヲ  
ソ也

差引

一億〇九百万同

剩餘金額

一億〇二百万同

一億一千三百万鑄造ノ為ニ用ユキモノ

差引

七百万同

又嘗テ徴収セル高別ニ六億九千五百万アリ之ニ七百万ヲ合算  
スレハ六億九千五百万ニクナリ到底是ハ獨乙國ニ於テ賣出  
セサルヲ得サルモノ也今是ヲ以テ既ニ賣出タル金額ト比較セ  
ハ其賣出高ノ意外ニ僅少ナルヲ見ルヘシ是故ニ將來尚ホ許多  
ノ銀量ヲ賣出スルハ必然ナリ然リ而シテ佛國白耳義國ニ於テ  
銀貨ノ鑄造ヲ全ク廢停シ且ツ獨乙國ノ景情此ノ如キカ故ニ銀

二六三

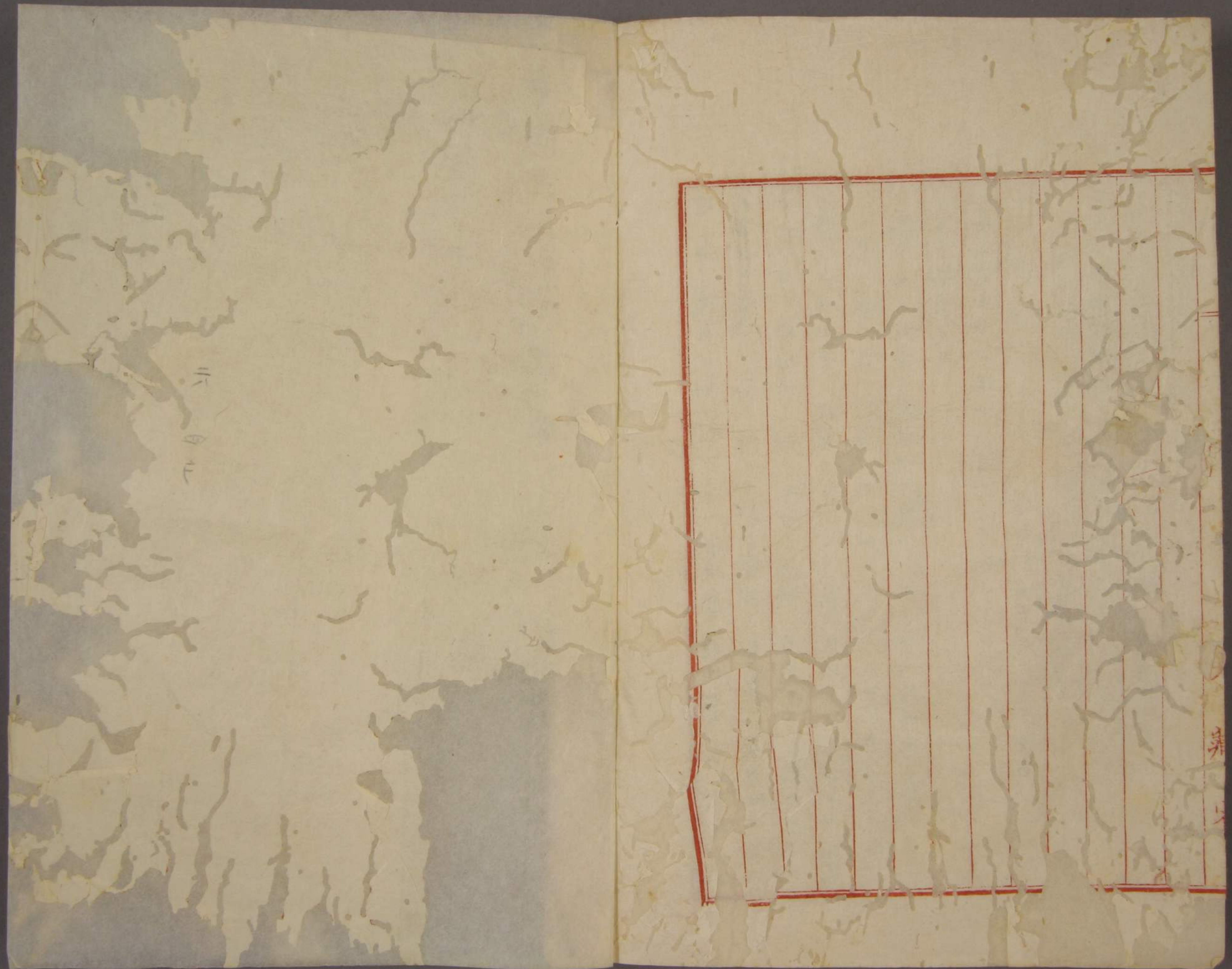
價ノ四ニ復スル期ナレト云ハ亦其當ヲ得サルモノト如シ  
我輩伏テ貴下ニ乞フ所アリ即チ貴國ニ於テ十一月二十三年二  
月十二日ノ貨幣法ニ因テ紙幣ノ消却ニ着手セル以來此ノ例  
ル種々ノ規則書ヲ授賜アラント且ツ又貴下ノ提督シテ編纂  
スル所ノ報告書ノ刺成ヲ世ニ公ニセントスルノ日亦幸ニ授惠  
ヲ辱フセハ我輩ノ感佩何リ堪ヘン伏テ希フ我願意ヲ喜納アラ  
ントラ頓首々々

千八百七十六年十二月十二日在「ハンボルグ」

白耳義領事「ルッム」謹白

本國貨幣調査委員主任長貴下





辨  
文

